

上等小學

人

體

論

磯部虹平
編輯

上



特 37

581

東京圖書館

函 二 二 門 彩

架 七 部 七

號 類 一

058182-000-8

特37-581

上等小学人体論

河合 虹平 / 編

M12

CBB-0348



磯部物外檢閱
河合虹平編輯

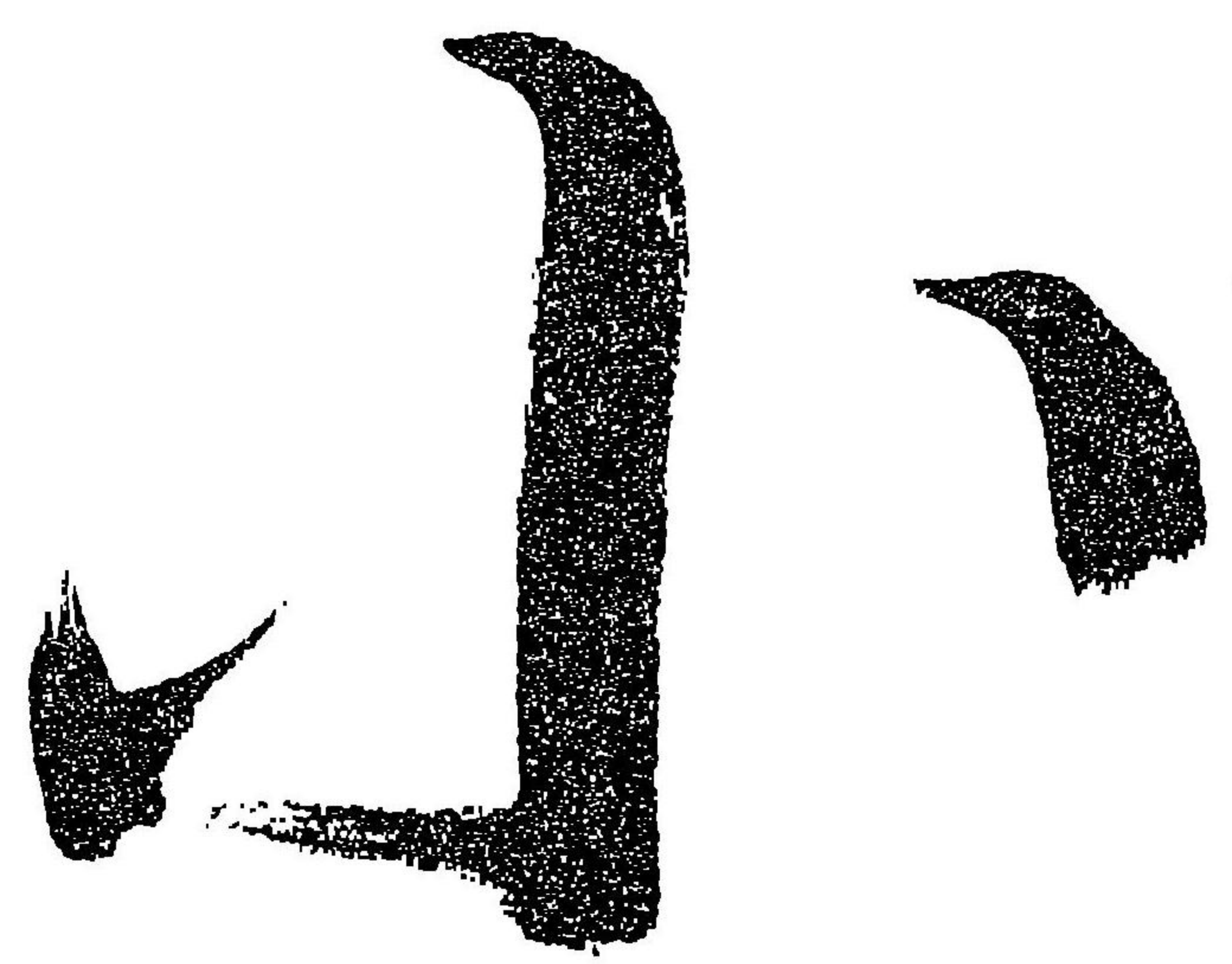
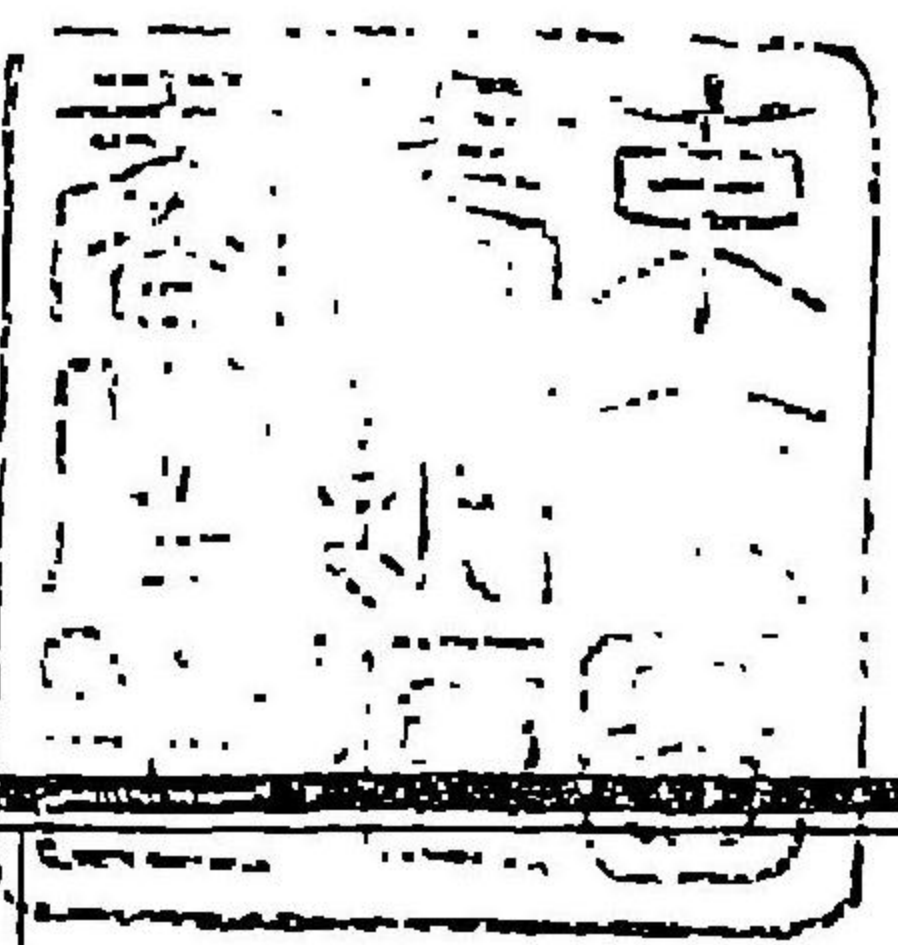
上等
小學
人
體
論
全

靜岡

師範學校



537
531



静岡師範学校蔵

不

器

開月十日
石田之新約



序

講以國之法者先辨其時勢修而
生之道者先明其經力民俗隆污
謂之時勢骨肉靈運謂之經力方
義以治大進益設學校教育之方教
課中者人 身窮理之日宜其使童

幼先知其所為本也而其種書雖多
一長一短學之者無完本焉河合
源卿曰先於茲者人禮編一書骨
髓之位置以肋肉之效用舉之要得
取舍之宜莫有遺憾也此字之解是
可以修南生之道衛生之道立而後

內外之德政海陸之軍務可以能也
也然則豫明於人身體者宜也
衛生固國之本也於此務求法
而遂之教其末則可為法學之言
遂之志於此乎深矣

明治十二年六月

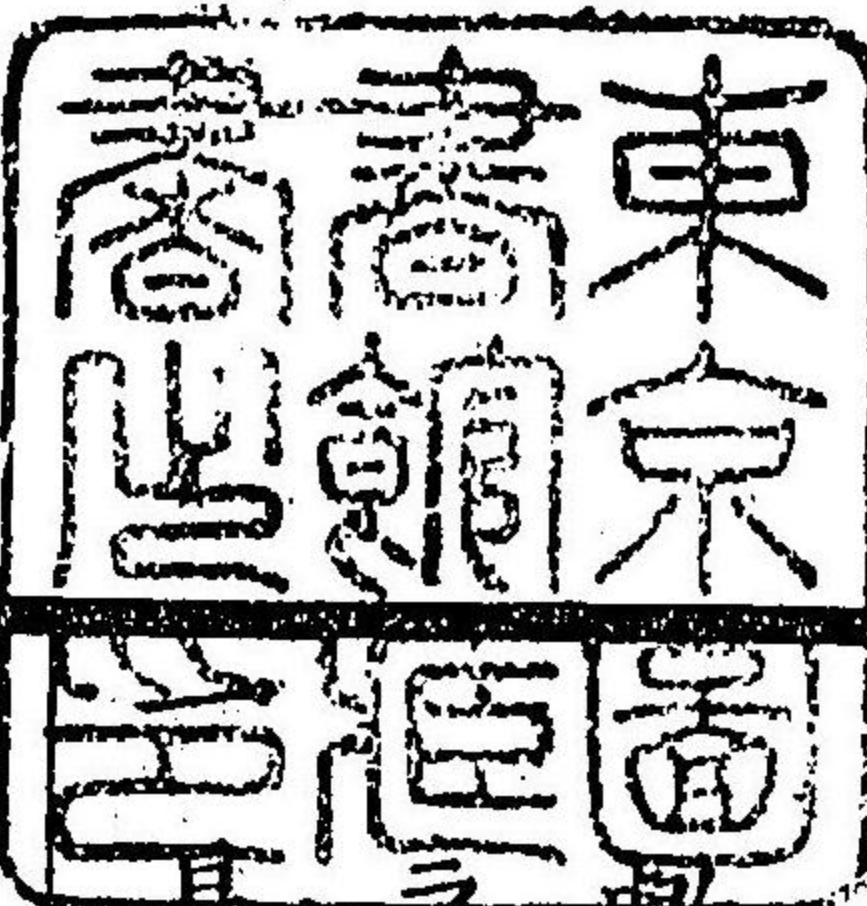
晚村招甫題



上等 小學人體論

凡例

一 是書大体ハ獨乙國シミット氏及ヒ同國ヘルマン氏ノ原本ニ因
 リ其他二三ノ譯書ニ就テ編輯スルヲ以テ其原本ニ因リシ條
 ハ往々直譯ニ係ルモノアリ故ニ普通ノ文法トハ自カラ語氣ヲ
 異ニスルモノアラシク讀者幸ニ其体裁ノ全カラサルヲ咎ムル勿シ
 一 是書主トスル所入身ノ体ト用トヲ略論スルニ止リ固ヨリ専門家
 ノ需求ニ應ス可キノ書ニアラス故ニ其体用中議論冗長ニ渉ル
 敷或ハ其細密ニ過クルノ件ハ儘之ヲ省略セリ讀者尚事理ノ密ナ
 ラシトヲ要セハ宜シク他ノ解剖生理ノ全書ニ就テ講究ス可シ
 是書筋肉ノ圖式ハ一々書中論示スルノ筋肉ニ係セス唯其緊要



ニノ領會シ易キモノヲ錄スルノミ諸者之ヲ了セヨ

一 是書説ク所ノ條件往々先キノ下等小學人體論ニ照應スルモノアリ讀者須ラク先ツ下等ノ書ヲ閱シ而ノ後本編ニ進入ス可シ大ニ曉リ易キモノアラシ

二 是書用ユル所ノ文字屢醫語ニ關涉スルモノアリテ普通ノ字義上ヨリ考ズハ稍其意ノ取リ難キモノアリ故ニ他日是書ノ譯解ヲ世ニ出サントス讀者若シ疑点アラハ乞フ其期ヲ待テ之ヲ解得シ玉ヘ

明治十二年六月

編者識

上等 人體論卷之上

静岡

河合虹平編輯

誘導編

凡ソ、解剖生理ノ二書ヲ講究セント欲セハ、先ツ其解剖生理ノ何物タルヲ知ラサル可ラス、抑モ解剖學ハ、西洋ニテ、之ヲ「アナトミー」ト稱シ、其語ノ原由ハ希臘ヨリ出テ、相ヒ切離スルノ義ナリ、故ニ、特リ人身ノミニ非ラス、有機體、即チ動植二物ノ造構若何ヲ講明スルノ學科ナリ、而メ此學ヲ大別ス、總論、各論ノ二般トス、甲ハ、有機體各器ノ成分ヲ化學上ニ驗シ、或ハ其造構ヲ顯微鏡上ニ驗スルモノナ

リ、乙ハ、人身各器ノ形狀、大小、及ヒ其位置等ヲ驗ス
 ルモノニ、更ニ之ヲ六系ニ分テリ、曰ク、骨學系統、
 曰ク、軟帶學系統、曰ク、筋學系統、曰ク、脈管學系統、曰
 ク、神經學系統、曰ク、內臟學系統是レナリ、而ノ茲ニ
 論スル所ノモノハ、即チ所謂各論解剖學ニ、其系
 統中、各器ノ生理作用ヲ付説スルモノナリ、蓋シ、生
 理學ナルモノモ、亦人身ニ限ルニアラス、況ク、動植
 二物ノ整正作用ヲ論スルノ學科ナリ、此編ノ若キ
 ハ、其二學ヲ混淆スルモノ、如シト雖モ、其條理ニ
 於テハ、固ヨリ異ナル所以ノモノアリ、分クテ、以テ、
 其區域ヲ紊ラサルヲ要ス、

第一系統骨學

骨學總論

此系統中、第二及ヒ第三ノ系統、即チ軟帶
 學筋學ヲ合説ス、

骨學ナルモノハ、人體基礎ノ造構及ヒ、貴重ノ器械
 ヲ包藏スル空殼并ニ筋ノ附着ニ供スル所ノ諸骨
 ヲ講スル者ニシテ其他、副器、即チ骨膜、骨髓、軟骨、及
 ヒ其骨ノ脈管神經ヲ論スルノ學ナリ

夫レ、骨ハ、種々ノ形狀ニ、黃白色ノ堅牢體ナリ、而
 ノ其化學上ノ成分ハ、骨土質ト、骨軟骨ヨリ成ル、其
 骨土質ハ、リン燐酸カル加爾基炭炭酸カル加爾基燐酸麻麻倍涅矢亞

拾羅兒那篤留母弗爾阿兒加爾叟母及珪土是等
 合物ハ、宜シク化學ニ就テ、ニノ、其骨軟骨ナルモノ
 ソノ性質ヲ詳ニスヘシ、テ、ニノ、其骨軟骨ナルモノ
 ハ、黄色彈力性ノ膠質ナリ、今、其土質ヲ去リ、唯、膠質
 ノミヲ得ント欲セハ、宜シク骨ヲ稀鹽酸或ハ硝酸
 ノ中ニ浸漬スヘシ、骨ニ鹽酸ヲ注ケハ、無機質即骨
 機質即チ膠質ヲ脱ス、又、炭燒スレハ、有

骨ノ性質ニ從テ、之ヲ緻密質ト、海綿質トノ二般ニ
 區別ス、而ノ緻密質ハ、總テ、骨ノ周圍ニ在ルヲ以テ、
 一ニ皮質ト云フ、海綿質ハ、種々錯綜シタル小骨板
 ヨリ成リ、其質鬆疎ニシテ、自ラ小隙ヲ生ス、之ヲ髓胞
 ト云フ、而メ海綿骨、其小隙ノ略廣キモノハ、更ニ之

ヲ胞狀質ト名ケ、又、稍狹キモノハ、之ヲ網狀質ト
 名ク、蓋シ此髓胞ナルモノハ、唯其海綿質ノミニ存
 シテ、決ノ皮質ニ有セサルモノナリ、故ニ皮質ハ、之
 レニ代ルニ、所謂ハーベル氏管ナルモノヲ有セリ
 此管ノ功用ハ、血管ノ通路ニ供スルモノニシテ、其狀
 恰モ管網ヲナス、而メ其管ノ方向、一分ハ外部ニ向
 ヒ、一分ハ内部即チ髓胞ニ向テ、開口スルモノナリ、
 骨ノ形狀ニ從テ、之ヲ長骨、扁骨、及ヒ短骨ノ三種ニ
 區別ス、
 長骨ノ名稱アル諸骨ハ、必ス、體ト兩端トヲ有スル
 モノニシテ、其端ハ、殆ト海綿質ナリ、又其體ハ、髓孔ト

名クル所ノ一管孔ヲ穿テ、以テ骨髓ヲ藏スルモノナリ、

扁骨ハ、其表面膨大シタル、二個ノ緻密骨板ヨリ成リ、其板間、海綿質ノ板骨ヲ含有ス、此骨ハ、頭蓋、胸膛及ヒ骨盤等ニ於テハ、一ツノ腔ヲ構造スルモノナリ、

短骨ハ、短厚多角ニメ、薄層ノ皮質ヲ被ムル所ノ海綿質ヨリ成ル、此骨ヤ、常ニ骨ノ并列ヲナス部分ヲ占ムルモノニメ、例之ハ、脊椎、手根、及ヒ足根等ニ於ケルカ如シ、

骨膜ハ、白色堅性ニメ、光澤アル纖維様ノ膜ナリ、此

膜ハ、總テ骨ノ表面ヲ被覆スルモノナレバ、但タ筋、腱、靱帶、及ヒ筋鞘ノ直ニ骨ニ接スル部ハ、之ヲ覆フナシ、

骨膜ハ、密接シタル内外ノ二層ヨリ成ル、其外層ハ、結締織ニメ、内層ハ、彈力組織ナリ、而メ此二層ノ間ニ許多ノ脈管神經ヲ有ス、是レ蓋シ其骨膜ノ為メニ有スルニアラスメ、其骨質ヲ榮養スル所以ノモノナリ、

骨髓ハ、骨ノ中心即チ髓孔ノ中ニアリテ、結締織ヲ有スル脂肪質、其他、水、塩類、纖維素、及ヒ蛋白質ヨリ成ル、而シテ此骨髓ナルモノハ、扁骨ノ二板ノ間、及ヒ

諸骨關節部ノ海綿質等ニ於テハ、之ヲ有スルヲナシ、故ニ是等ノ部位ニ在テハ、赤色膠狀ノ流動物ヲ含ム此物ハ、水、越^エ幾^キ斯^ス質^ツ、及ヒ少量ノ脂肪ヨリ成ル骨中ノ脈管、其一分ハ、骨ノ全表面ニアル所ノ細孔ヨリ入り、而メハーベル氏管ヲ通入ス、又々他ノ一分ハ、長骨ノ両端ニ固有スル所ノ前ノ細孔ヨリ稍大ナル二孔、即チ所謂滋養孔ヨリ進入スルモノナリ、

骨中ノ神經ハ、耻骨、聽骨、聽骨ハ、耳中ニ在リテ、音聲ヲ聽取スルノ媒ヲナスモ、ノニメ、槌骨、砧骨、小珠骨、馬鐙骨ノ四骨ヲ云フ、此骨甚タ小骨ナルヲ以テ、本書ノ骨數中ニ算入セス、亦其法ナキヲ除クノ外ハ、概ノ脈管ニ副行ス、而メ其ニアラス、

起源ハ、腦及ヒ脊髓系統ニ在ルモノナリ、

種子骨ハ、細小圓形ニメ、海綿質ノ骨ナリ、其功用、一ハ關節ノ滑車ヲナシ、一ハ筋ノ附着ニ供ス、通例此骨ハ、手足ノ拇指及ヒ大趾ノ關節部分ニ位スルモノナリ、
骨ノ連接スルヤ、各一様ナラス、故ニ、之ヲ三種ニ區別ス、

其一 骨縫

骨縫トハ、扁骨ノ銳縁ヲ以テ直ニ連接スル所ノモノヲ云フ、又々假骨縫ナルモノアリ、喩ヘバ、骨縁ノ尖銳ナラスメ單ニ密接スル者、及ヒ鱗狀ニ連接ス

ル者是レナリ、而人單ニ密接スル者ヲ符合骨縫ト云ヒ、鱗狀ニ連接スル者ヲ、鱗狀骨縫ト云フ、唯、頭骨ハ、連接ニア、其他齒牙ト顎骨トノ連接ノ若キハ、更ニ名クテ楔狀縫合ト云フ、

其二 軟骨縫隙

軟骨縫隙ハ、兩骨ノ間ニ一ノ別體ヲ含有スル連接ヲ云フ、而メ軟骨ヲ間スルモノト、靱帶ヲ間スルモノトノ二般アリ、例之ハ、耻骨地平枝ノ連接ノ如キハ、軟骨ヲ間スルモノニメ、脊椎骨體ノ連接ノ如キハ、靱帶ヲ間スルモノナリ、

其三 關節

關節トハ、兩骨面ノ靱帶ニ由テ繫着セラレ、其間ノ運轉自由ナル連接ヲ云フ、然メ關節ノ運轉ヲシテ自由ナラシムル所以ノ者ハ、蓋シ、其關節ノ間ニ一、種ノ液、即チ「シ」ノ「ビ」滑液ノ義ナルモノヲ含ムニ因ル、此液ハ、骨膜ノ延展メ、骨端ヲ被覆スル所ノ囊、即チ所謂關節囊ヨリ分泌スルモノナリ、今茲ニ關節ノ形狀ニ從ヒ、更ニ分クテ、四種トナス、

其一 半動關節

半動關節ハ、緊張シタル、短キ靱帶ニ由テ包圍セラレ、其關節面多少ノ屈曲ヲナス、而メ其運動、甚ク微ナリ、喻ヘバ、手根骨、及ヒ足根骨ノ關節是レナリ、

其二車軸關節

車軸關節ハ、縱軸ニ由テ、自ラ回轉スル關節ヲ云フ、
ト第一頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第二頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第三頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第四頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第五頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第六頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第七頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第八頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第九頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第十頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、

其三蝶番關節

蝶番關節ハ、骨ノ二凸處ヲ以テ、他ノ二凹處ニ嵌入
シ、而メ骨ノ突出部、又ハ側鞞帶ニ由テ、外轉、及ト内
轉ヲ妨ダラレ、唯、屈伸ノミヲナス、
ト第一頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第二頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第三頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第四頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、

其四全動關節

全動關節ハ、其關節面球狀ヲナシ、以テ各方ニ向ヒ
運動ス、然メ其部延展スヘキ囊アリテ、之ヲ固繋ス、
又々、時トシテ側鞞帶ヲ有スルアリ、
ト第一頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第二頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第三頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第四頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第五頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第六頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第七頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第八頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第九頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、
ト第十頸推トノ關節ノ如キ是レナリ、

第一章頭骨

頭骨ハ、之ヲ頭蓋骨、面骨ノ二般ニ區別ス、而メ頭蓋

骨ハ、八骨ヨリ成ル、即チ後頭骨、蝴蝶骨、此兩骨ハ、頭蓋構造ノ主骨ナリ、故ニ之ヲ蝴蝶骨、篩骨、顛頂骨、二個顛顛骨、二個及ヒ前頭骨是レナリ、面骨ハ、十四骨ヨリ成ル、即チ上顎骨、二個下顎骨是レナリ、二個鼻骨、二個口蓋骨、二個淚骨、二個下甲介骨、二個鉚骨、二個及ヒ下顎骨是レナリ、

其一頭蓋骨 總數八個

頭蓋骨ハ、内外二板ヨリ成ル所ノ扁骨ニメ、其外面ハ穹隆シ、内面ハ陥凹シテ、恰モ貝殼狀ヲナスモノナリ、而メ此八骨ハ、共ニ相ヒ合メ、一ツノ大腔ヲ構成ス、之ヲ頭腔ト云フ、

○後頭骨ハ、奇骨ニメ其位置、頭蓋ノ後下部ニアリ、

後頭骨 下面ノ圖

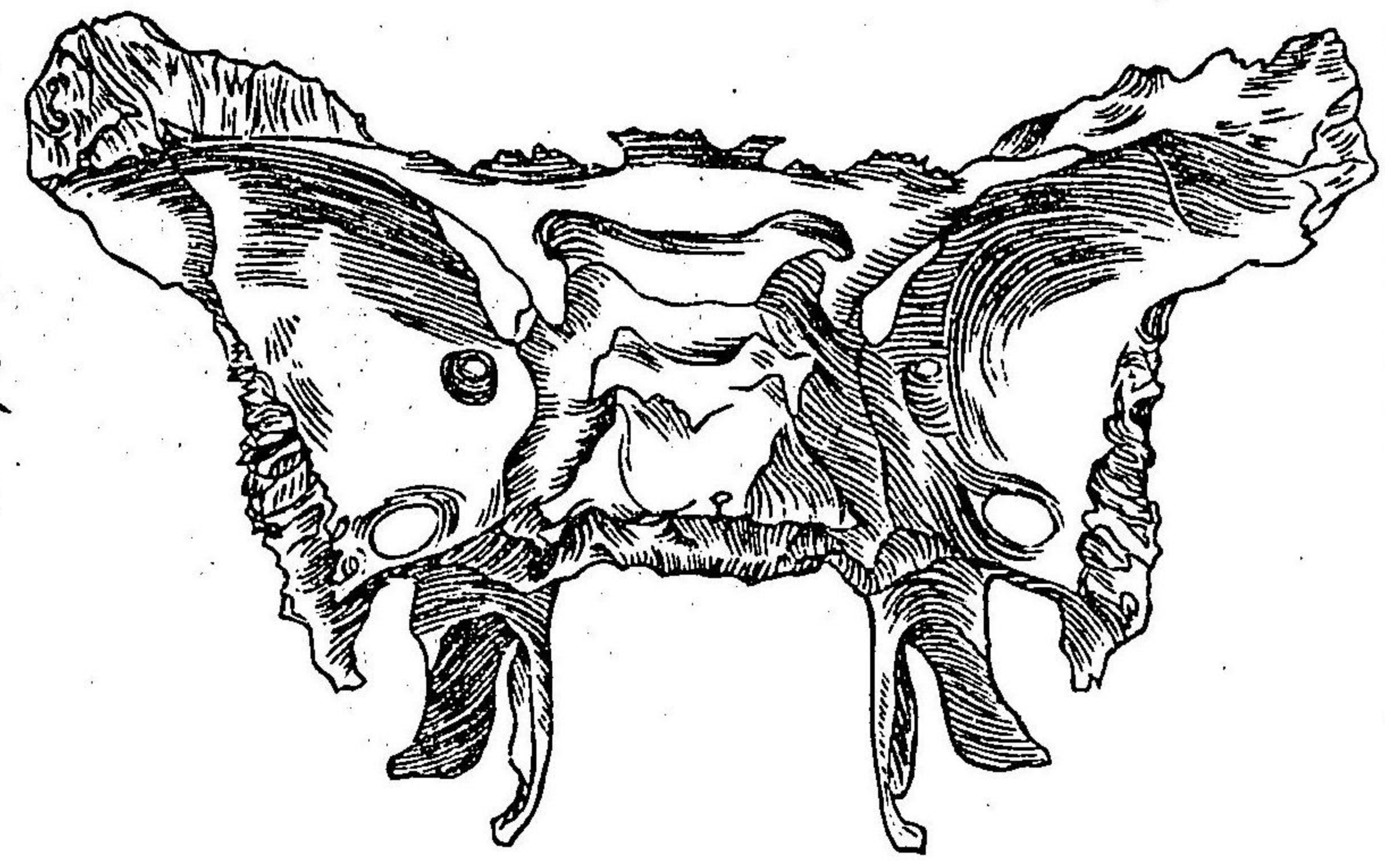


而メ其中央ニ於テ、一ツノ大孔ヲ穿テリ、之ヲ後頭大孔ト名ツク、此レ延髓ト脊髓ト相ヒ通スルノ孔ナリ、又タ此孔ノ兩側ニ結節狀ノ突出物アリ、之ヲ顆状突起ト名ツク、此

レ第一頸椎ラストニ接スルノ部ナリ

○蝴蝶骨亦奇骨ニシテ形チ飛蝶ノ如シ、故ニ此名

蝴蝶骨
ノ上面
ノ圖



ナリ、此骨ノ岩狀部ト名クル一部分ハ、深ク頭蓋内ニ

アリ、此骨ハ頭蓋底面ノ正中ニ位シ、多クノ頭骨ト連接シテ、頭蓋ノ基礎トナル、而シテ其上面ハ即チ大腦底ヲ受クルノ面トナルナリ

○顛顛骨ハ偶骨ニメ左右ニ對在シ、以テ耳ノ部分ヲ占ムルモノ

左顛顛骨外面
ノ圖



モノナリ又此部ノ下方ニ於テハ、下顎骨ノ顛狀突起ト關節シ、以テ口ノ啟閉ヲ營ム、

潛伏シ、聽骨并ニ聽神經等ヲ藏スルモノニノ甚ク貴要ノ部タリ、其他此骨ニハ鱗狀部、乳頭部等ノ名稱アリ、就中鱗狀部ハ、其上縁顛頂骨ノ下縁ト合ノ特異ノ縫合即チ所謂鱗狀縫合又タ骨縫ヲナス

○篩骨亦奇骨ニノ蝴蝶骨ノ前、前頭骨ノ兩眼窩部ノ中間ニアリ、此骨ハ地平板、鉛直板、兩側部ノ三部ヨリナルモノナリ、乃チ地平板ハ地平ニノ板面無數ノ細孔ヲ穿テ、其狀恰モ篩ノ目ノ如シ、故ニ篩骨ノ名アリ、而シテ此



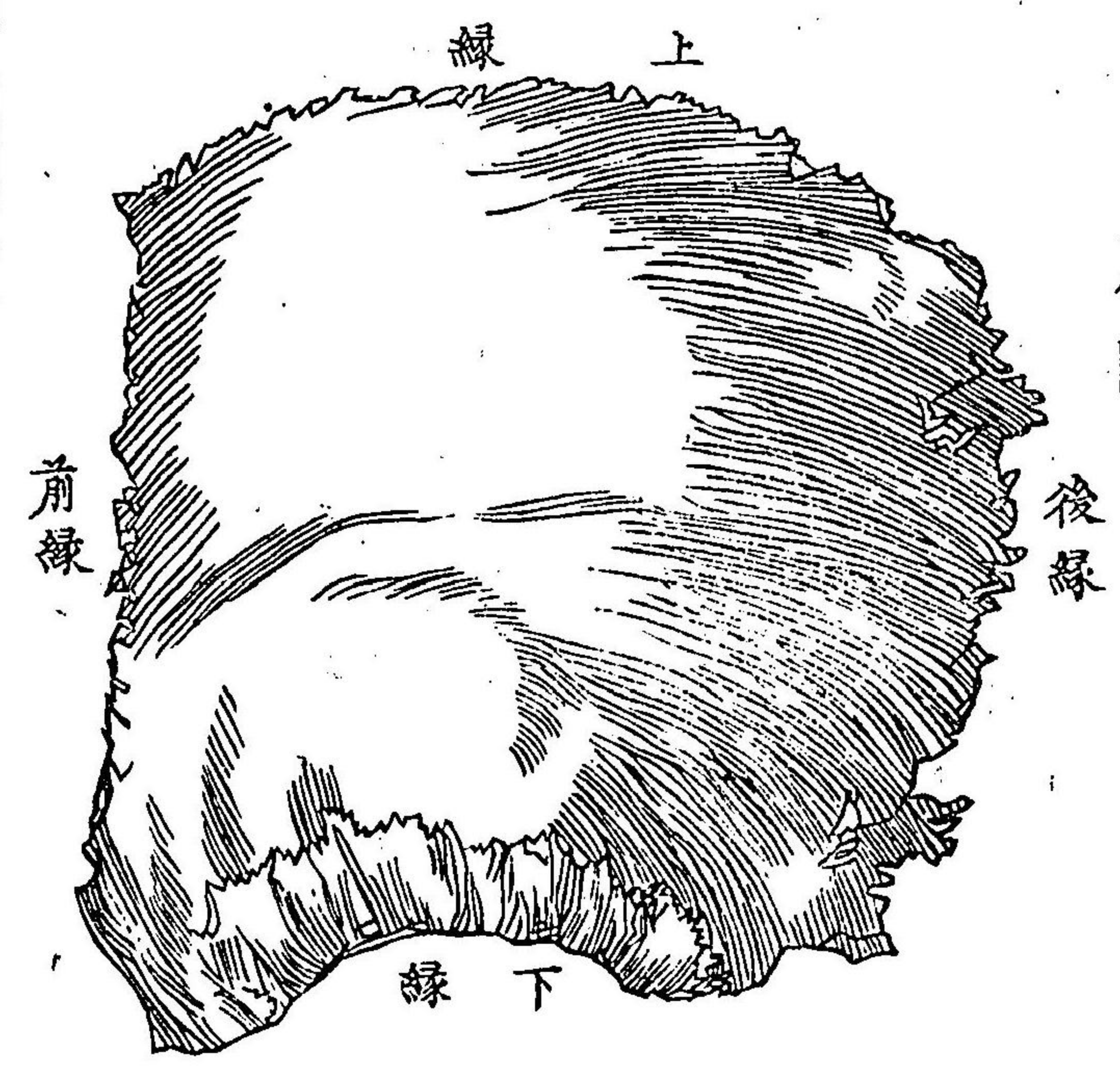
細孔ハ、腦ノ第一對顳神經神經學ヲ見ヨノ鼻ニ通スルノ要路ナリ、鉛直板ハ鉛直ニノ鼻ノ正中ニ下垂シ、以テ鼻中隔ノ一部ヲ構成ス、兩側部ハ地平板ノ下、鉛直板ノ兩側ニ垂懸スル二個ノ四角體ニノ之ヲ篩骨胞或ハ篩骨竇ト云フ、此篩骨竇

ハ、紙狀板ナルモノヲ以テ眼窩ヲ界シ、鼻板ト云ヘルモノヲ以テ鼻腔ヲ鎖ス、而シテ其鼻板ノ末端ハ上下二個ノ甲介骨ニ終ル、之ヲ上下篩骨甲介骨ト云フ、篩骨下甲介骨ハ、鼻下甲介骨ニ對シ、篩骨中甲介骨ト稱スルモノナリ、而シテ篩骨上下甲介骨ハ、俱ニ蓋ノ骨數ニ算セサルナリ、而シテ頭而シテ篩骨上下甲介骨ノ間ニ一空地ヲナス之ヲ上鼻洞ト云ヒ、又篩骨下甲介骨ト鼻下甲介骨面骨ニ屬ス、トノ間ニ一空地ヲナス、之ヲ中鼻洞ト云ヒ、鼻下甲介骨ト鼻腔底トノ間亦一空地ヲナス、之ヲ下鼻洞ト云フ、而シテ其上中ノ二洞ハ專ラ嗅覺ヲ司ルノ部分ニシテ、下鼻洞ハ毫モ嗅覺ニ關セス、唯大氣ヲ肺臟ニ導クノ一路

ハ、紙狀板ナルモノヲ以テ眼窩ヲ界シ、鼻板ト云ヘルモノヲ以テ鼻腔ヲ鎖ス、而シテ其鼻板ノ末端ハ上下二個ノ甲介骨ニ終ル、之ヲ上下篩骨甲介骨ト云フ、篩骨下甲介骨ハ、鼻下甲介骨ニ對シ、篩骨中甲介骨ト稱スルモノナリ、而シテ篩骨上下甲介骨ハ、俱ニ蓋ノ骨數ニ算セサルナリ、而シテ頭而シテ篩骨上下甲介骨ノ間ニ一空地ヲナス之ヲ上鼻洞ト云ヒ、又篩骨下甲介骨ト鼻下甲介骨面骨ニ屬ス、トノ間ニ一空地ヲナス、之ヲ中鼻洞ト云ヒ、鼻下甲介骨ト鼻腔底トノ間亦一空地ヲナス、之ヲ下鼻洞ト云フ、而シテ其上中ノ二洞ハ專ラ嗅覺ヲ司ルノ部分ニシテ、下鼻洞ハ毫モ嗅覺ニ關セス、唯大氣ヲ肺臟ニ導クノ一路

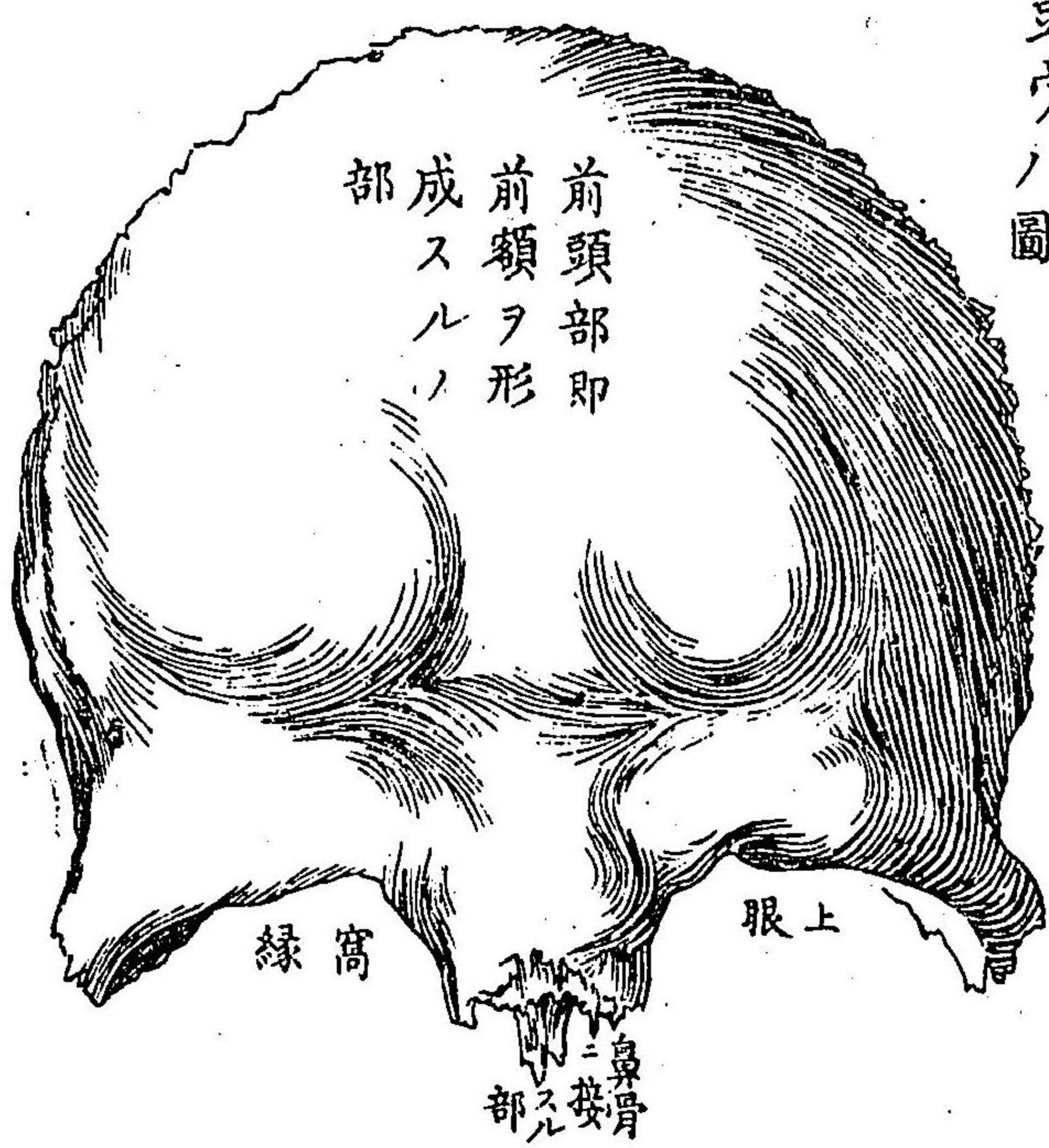
二供スルノミ

左顱頂骨ノ外面圖



○顱頂骨亦偶骨ナリ、其形四角ノ貝殻状ニノ頭蓋天井ノ大部分ヲ構成スルモノナリ、此骨ノ上縁ハ、他側ノ同名骨ト接シ下縁ハ顱頂骨ニ接シ、前縁ハ前頭骨ニ接シ、後縁ハ後頭骨ニ接ス、

○前頭骨亦奇骨ニノ頭蓋ノ前部即チ後頭骨ノ前方ニ正對スルモノナリ而シテ此骨ノ關涉甚タ廣シ乃チ頭腔ニ在テハ其前部ヲ構成シ眼窩及ヒ鼻腔ニ在テハ其上部分ヲ構成ス殊ニ前額ハ全ク此一骨ニテ成レル者ナリ○頭蓋ニ二種ノ筋ハ學問上ノ謂肉ナルモアリ曰



謂肉ナルモアリ曰

ク前頭筋後頭筋是レナリ前頭筋ハ前頭部即チ前額ニアリ上リテ頭蓋ノ天井ニ至ル後頭筋ハ後頭部ニアリ上リテ前頭筋ニ密接ス而シテ此二筋交々相働ク片ハ毛髮部ノ皮膚為メニ運動シ若シ二筋同時ニ働ク片ハ其皮膚為メニ緊張ス夫レ筋ハ此ノ如ク生體上運動ノ器械ニシテ其解剖上ノ組織ハ筋纖維ト結締織ト云ヘルニツノ者ヨリ成ルナリ抑モ此筋纖維ナルモノハ細胞ノ延長セルモノニシテ核ヲ含ミ其長サ廣サニ勝レルモノナリ而シテ纖維ハ甚微細ニシテ顯微鏡ノ力ヲ藉ルニアラサレハ見ルコト能ハス

筋ハ此筋纖維ト結締織トヨリ成ルモノナリト雖モ其根リニ束集セシモノニアラス詳ニ之ヲ説クハ先ツ數條ノ筋纖維ノ集合シタルモノヲ筋原ト名ケ結締織アリテ之ヲ包ム名ケテ筋鞘ト云フ筋原ノ數個相合セシモノヲ筋束ト名ケ内筋衣ト云フモノアリテ之ヲ包ム又タ此筋束ノ數個合シタルモノヲ筋條ト名ケ外筋衣ト云フモノアリテ之ヲ包ム筋條數個相合メ初テ筋ノ名ヲ得ルナリ而シテ此筋ハ筋膜ニ被包セラレ此膜延展メ各個ノ筋間ニ嵌入シ以テ之ヲ連繫ス之ヲ筋間靱帶ト云フ今茲ニ筋ノ生理作用ヲ略説セムニ筋ハ原ト運動

ノ器械ナルヲ以テ人體諸部ノ動機靈妙ナルハ盡ク筋ノ働ニ屬セサルモノナシ而シテ筋ノ然ク運動スル所以ハ全ク其原質タル筋纖維ノ自カラ收縮スルニ因ルナリ故ニ其運動機ヲ目ノ筋ノ收縮性ト云フ

筋ノ收縮ハ故ナクソ發スルモノニアラス必ス神經ノ刺衝ヲ受ケテ初メテ之ヲ發ス但シ神經ハ筋纖維ノ實質中ニ分行スルモノニアラス其筋鞘ニ達シ而シテ止マルモノナリ

筋ニ二般ノ區別アリ曰ク横紋筋曰ク平滑筋是レナリ横紋筋ハ纖維横列ノ其位置正整タリ平滑筋

ハ纖維縱列ノ其位置正整ナラス而シテ横紋筋ハ體ノ隨意運動ヲ管ムモノニメ手足等ノ筋之レニ屬シ平滑筋ハ體ノ不隨意運動ヲ為スモノニメ胃腸等ノ筋之レニ屬ス

カモ亦專ラ筋纖維ニアリテ骨ノ働ニアラス故ニ筋纖維ノ數多ケレハ其力強ク筋纖維ノ數少ナケレハ其力弱シ人ノ肉太リテ力強キハ其實肉ノ太リタルニアラス筋纖維ノ數ノ増加シタルナリ

凡ソ此筋肉ヲ使役スル其度ニ適スレハ筋纖維次第ニ増加シ天然ノ數ニ五倍スルニ至ル故ニカモ亦五倍トナルヲ得ベキナリ然レモ身怠惰ニ耽リ

筋肉ヲノ安逸ニ過サシメハ一旦増加セシ筋纖維ト雖凡再ヒ減ノ原ノ數トナリ著シク筋肉ノ軟弱ナルヲ覺フベシ農夫等ハ平日田野ニ在リテ適宜ニ筋骨ヲ勞スル自然ノ良業ナルヲ以テ別ニ法ヲ加ヘテ運動スルニ及ハサレ凡學校生徒ノ如キハ勞スル所筆紙ヲ取ルニ過キス故ニ法ヲ加ヘテ運動セサレハ筋骨終ニ萎弱シ從テ體力大ニ減殺スベシ是レ體操ノ設ケ欠ク可ラサル所以ナリ抑モ此體操ナルモノハ筋骨ヲ強健ニシ身體發育ノ機ヲ進メ自然良能上大ニ益スル所アルモノナレハ人々務メテ之ヲ行ハサル可ラス之ヲ行フヤ常ニ

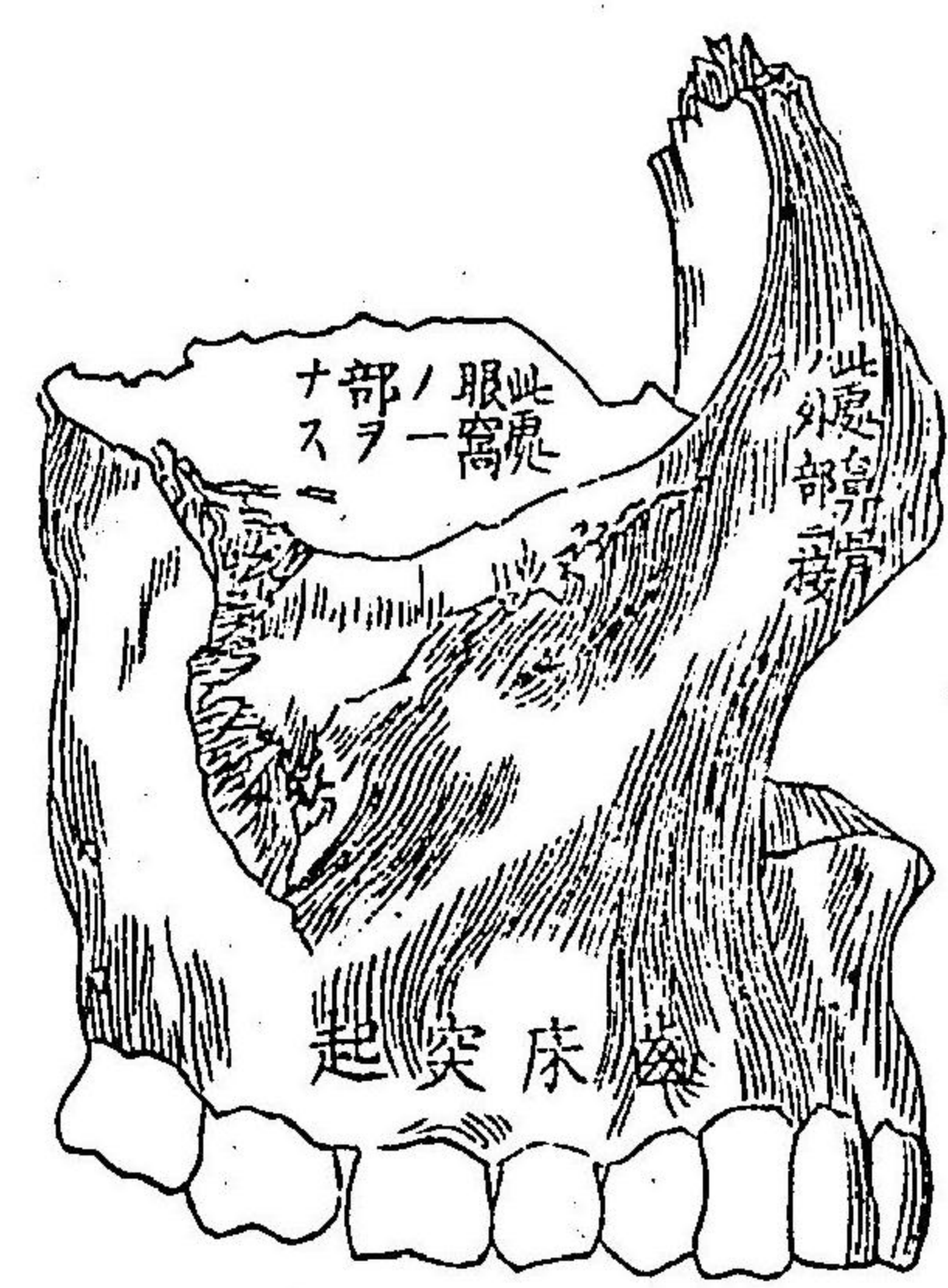
晝間日光ノ中ニ於テスヘシ是レ日光ハ動植ニ物ノ發育上ニ於テ大關係アレハナリ夫ノ坑夫及ヒ蔭所ノ植物等ハ其色慘淡トノ本來ノ正色ヲ失ス以テ了スベキナリ

其二面骨

面骨ハ十四骨共ニ密接ノ少シモ動搖セサルモノナリ加之頭蓋骨トノ連接ハ真ノ骨縫ニ屬ス但シ下顎骨ハ他ノ面骨ト異ニシ其顛顛骨トノ連接ハ關節ニ屬ス故ニ能ク運動スルモノタリ

○上顎骨ハ顔面ノ正中ニ位シ鼻下ノ中央ニ於テ左右兩骨相對合ス此骨ハ顔面骨ノ基礎ニシテ

ノ諸骨盡ク之レニ接ス而ノ其下部ハ兩骨各彎形ノ突起ニタル形状ヲ云フニ終ル之ヲ齒床突起ト云フ此突起ニハ左右各八個ノ深窩アリ之レ齒牙ノ嵌入スル處ナリ又タ此處ヨリ後方ニムカヒ以テ口蓋骨ニ接スル所ノ平板アリ名ケテ口蓋突起ト云フ此突起ノ上面ハ鼻ノ底面ト成リ下面ハ口腔ノ天井トナルナリ



口蓋骨ハ口蓋部、鼻部トノ二様ニ分カテリ口蓋部ハ地平ニノ上顎骨ノ口

左口蓋骨 後面ノ圖



左淚骨 外面ノ圖



蓋突起ニ接シ以テ口腔天井ノ後部ヲ成シ鼻部ハ直立ニメ鼻孔ノ後部ニ在リ以テ其兩側壁ヲナスモノナリ

○淚骨ハ眼窩ノ内側ニ在リ至薄ノ扁平骨ニメ其形殆四角ナリ此骨淚囊ヲ容ル、ノ溝ヲ有

ス故ニ淚骨ノ名ヲ得ルナリ
 ○鼻骨ハ其形鑿狀ニメ左右兩骨駢列シ以テ鼻梁ヲ構成ス而メ此骨ノ上縁ハ前頭骨ニ接シ外縁ハ上顎骨ニ接シ内縁ハ他側ノ同名骨ニ接シ下縁ハ

右鼻骨ノ外面圖



遊離メ梨子狀孔ノ上部ヲ構成ス
梨子狀孔ハ鼻骨ト上顎骨トヨリ
ナル所ノ孔ナリ故ニ此名アリ
梨子ハ似タリ筋ヲ剥脱セシ骸骨
此孔ハ顔面諸筋ヲ剥脱セシ骸骨
得ベキノ見ルヲ
=就テ見ルヲ
=就テ見ルヲ

右顴骨ノ外面圖



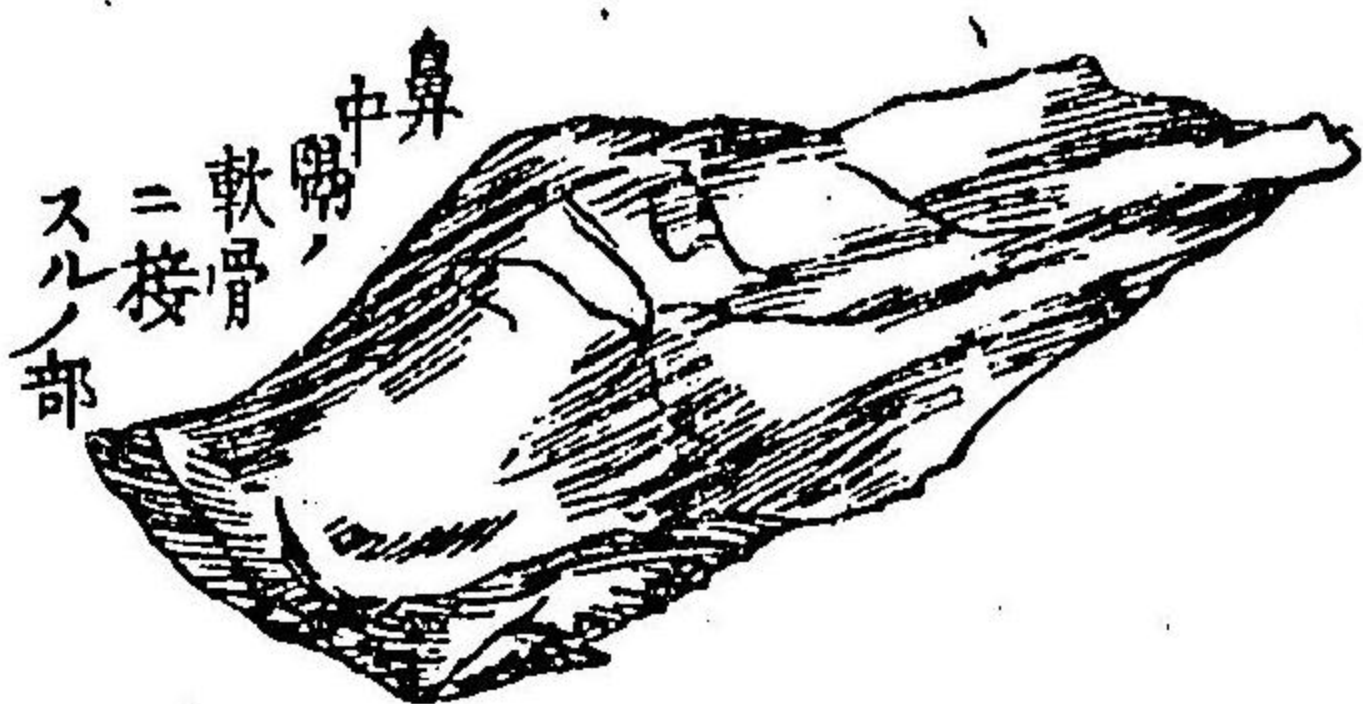
○顴骨ハ不正ノ四角骨ニ
メ顔ノ外側ニ位ス此骨ノ
前面ハ凸隆メ滑澤ナリ又
タ其一部ハ上リテ眼窩ノ
外壁ヲナシ以テ前頭骨ニ
接ス

○鼻下甲介骨ハ口蓋骨ノ

左鼻下甲介骨ノ内面圖



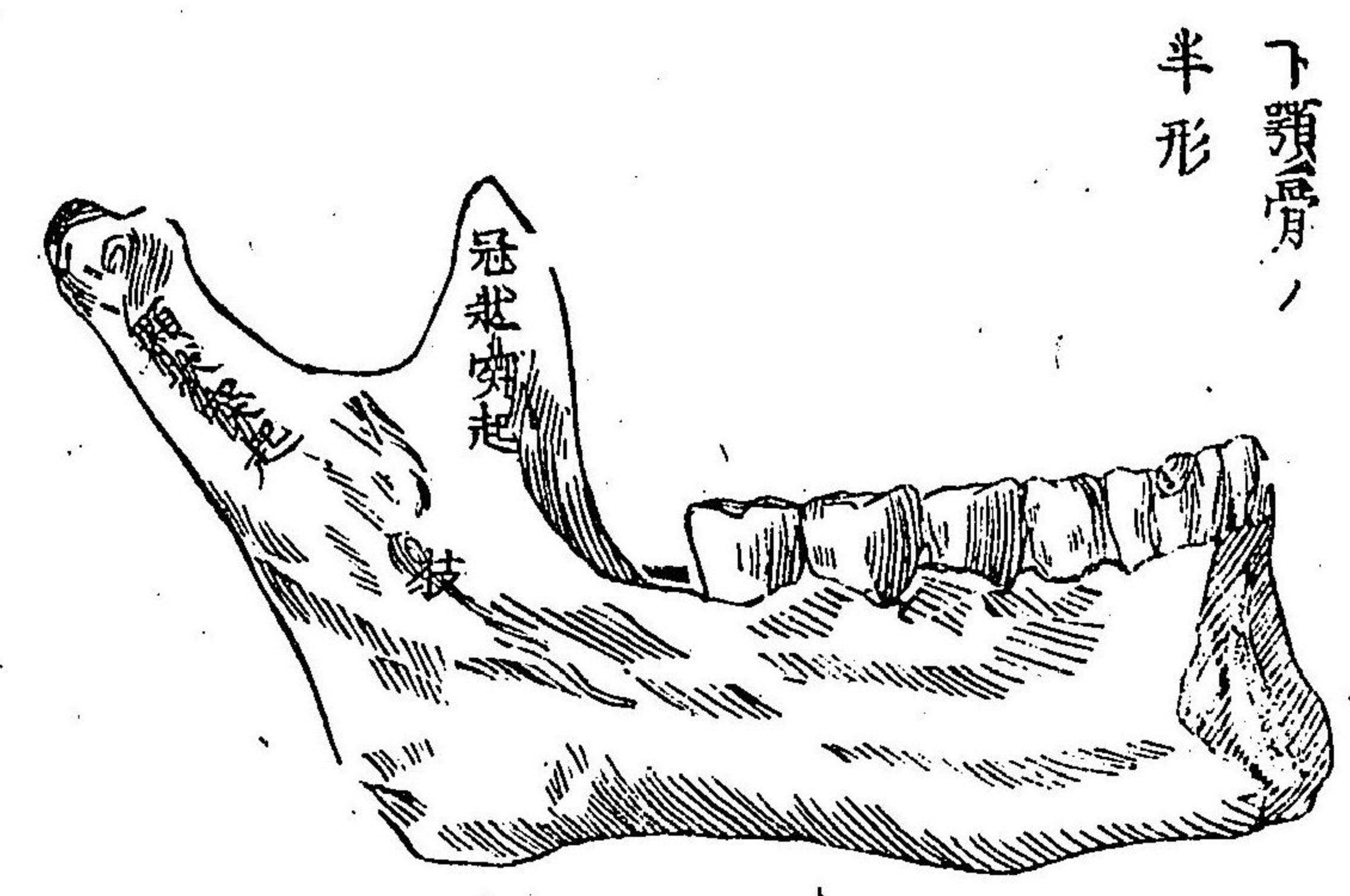
錐骨



鼻部ヨリ生シテ鼻
腔ノ兩側部ニ位ス
ル海綿質海綿狀ノ
ノ板骨ナリ此骨ノ
上縁ハ口蓋骨ノ鼻
部ニ接シ下縁ハ稍
ヤ厚フメ鼻腔内ニ
遊離ス

○錐骨ハヤ、稜形ノ扁平骨ニメ鼻ノ中央ニアリ
鼻中隔ノ軟骨ト合シ以テ鼻中隔ノ後部ヲ成スモ
ノナリ

○下顎骨ハ顔面中最大ノ骨ニメ顔ノ下部ヲナシ
 其形恰モ馬蹄鉄ノ如シ此
 骨ノ上縁ニハ上顎骨ニ於
 ケルカ如ク十六個ノ深窩
 アリ同シク齒牙ノ嵌入ス
 ル處ナリ又タ此骨ノ兩端
 ヲ名ケテ枝ト云フ枝ノ末
 端更ニ分レテニツノ突起
 ニ終ル而メ其前方ニアル
 者ヲ冠狀突起ト名ケ其後
 方ニアル者ヲ顆狀突起ト

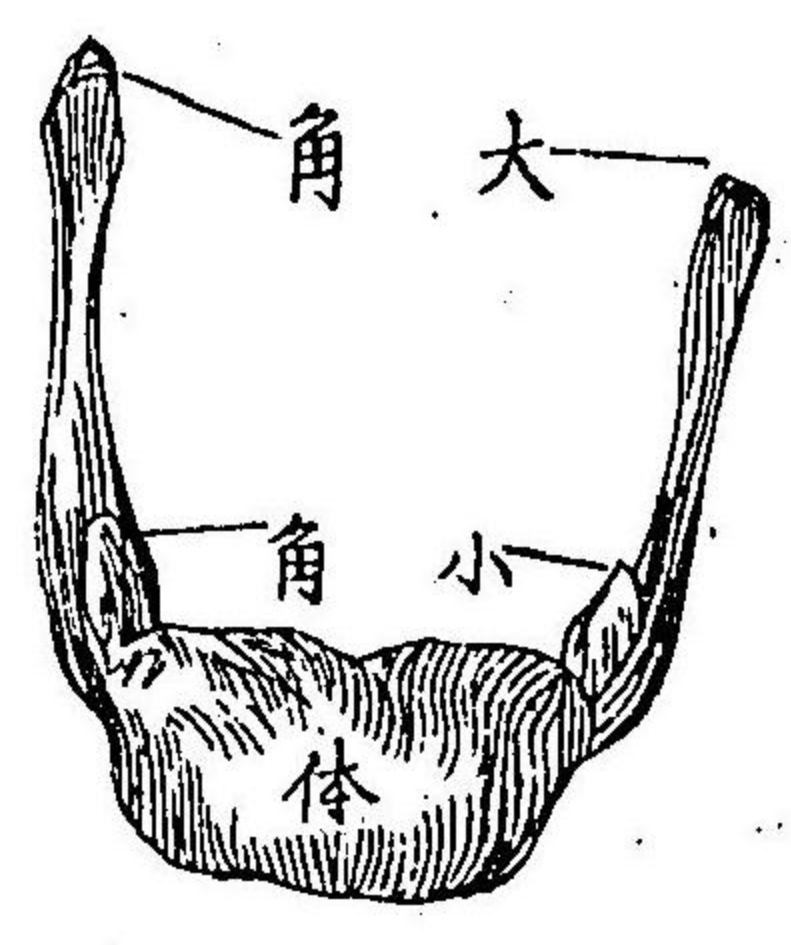


方ニアル者ヲ顆狀突起ト

名ク顆狀突起ハ顚顚骨ニ關節シ以テ口ノ啓閉ヲ
 ナスモノナリ
 下顎關節即チ顚顚骨
小ノ連接ヲ固持繋着スル靱帶四種アリ
 リ曰ク囊狀靱帶曰ク外側靱帶曰ク内側靱帶曰ク
 錐狀下顎靱帶之レナリ
 以上顔面骨十四枚ノ外此部類ニ記載スヘキ
 小骨一枚アリ之ヲ舌骨ト云フ抑モ舌骨ハ他
 ノ全身衆骨ニ連累セスノ顚ノ前側口腔底ノ
 後部筋肉中ニ其位ヲ占ムルモノナリ故ニ夫
 ノ三大部分ノ骨屬中ニ列スルヲ得ス但タ顔
 面骨ニ近接スルヲ以テ此ニ其附屬骨トナシ

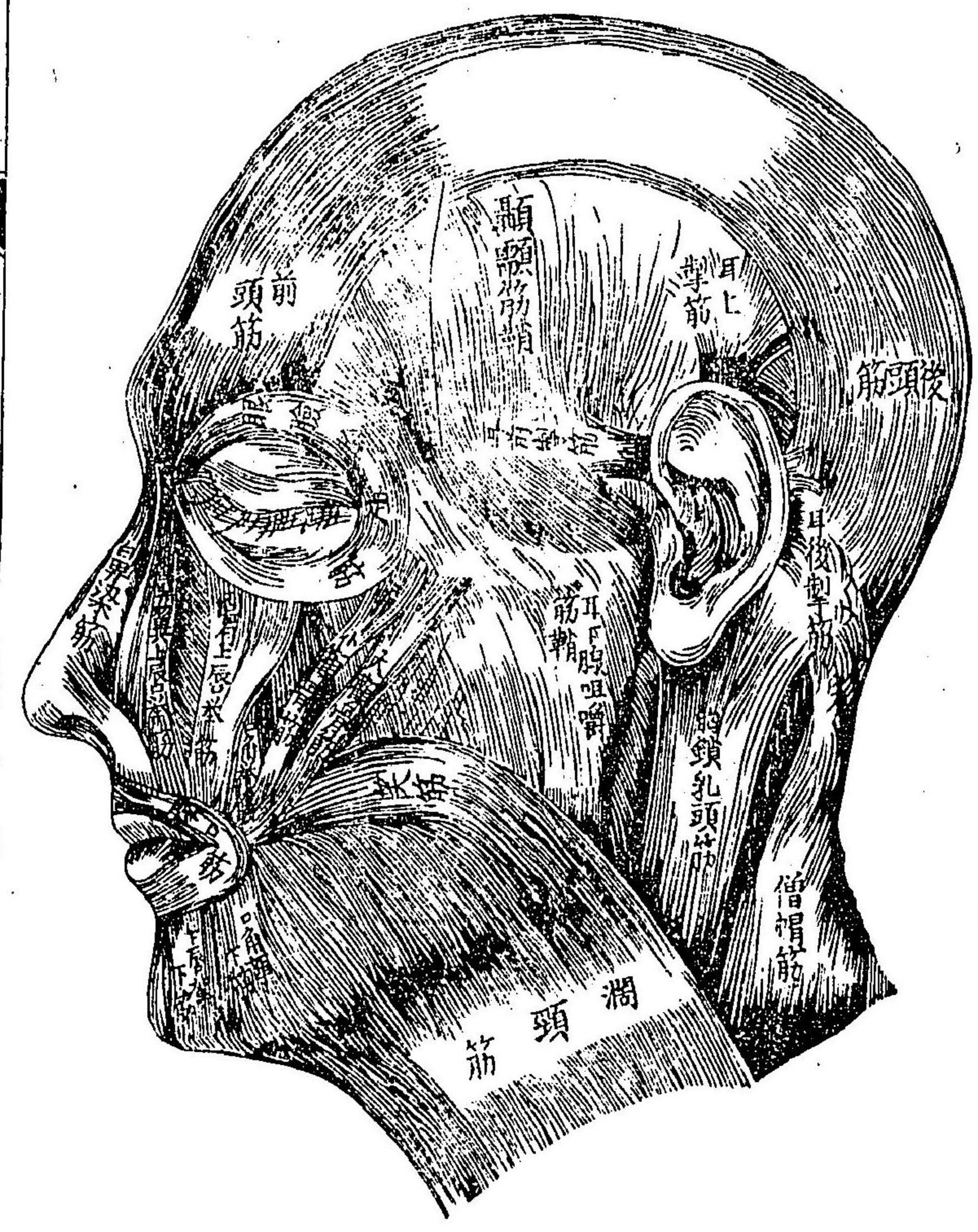
以テ之ヲ論ス

○舌骨ハ一個ノ小骨ニシテ之ヲ體ト角トノ二様ニ分ツ而シテ體ハ前面穹隆ニシテ後面陷凹ナリ又々體ニハ上下ノ銳縁ト二ツノ端ト有セリ角ニ大小ノ二個アリ共ニ左右ニ對在ス乃チ大角ハ體端ノ下部ニアリテ小角ハ體端ノ上部ニアリ此角ハ錐狀舌骨軟帶ノ附着ニ供スル者ニシテ其體トノ連接ハ或ハ關節ニ由リ或ハ軟骨縫際ニ因ル



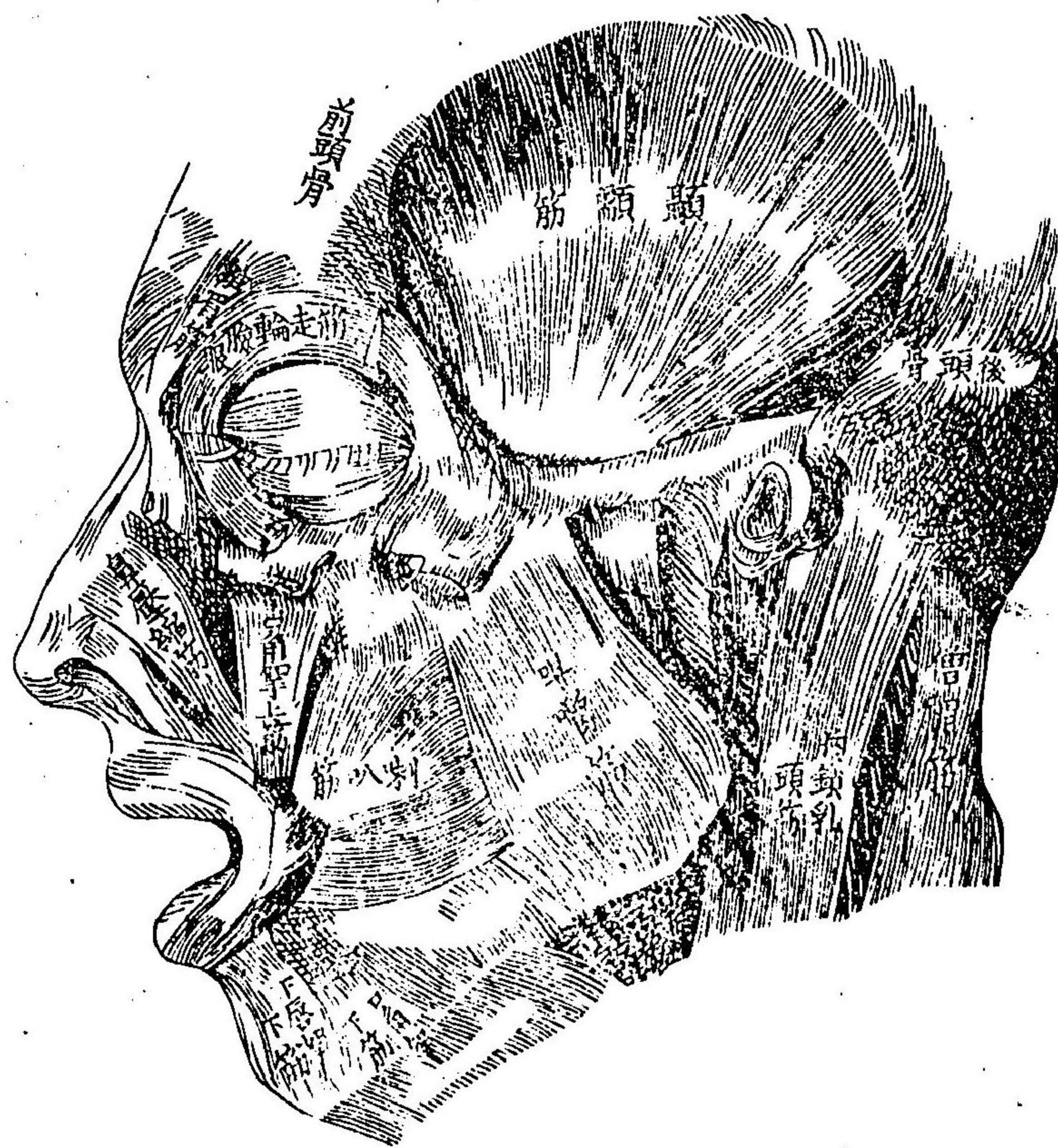
顔面ニ屬スル所ノ筋ハ數般アリ以テ顔部種々ノ運動ヲ營ム今之ヲ分ケテ四類トナス曰ク眼部筋曰ク鼻部筋曰ク口部筋曰ク下顎筋是レナリ

頭顔ノ筋及筋鞘ノ圖



運動ヲ營ム今之ヲ分ケテ四類トナス曰ク眼部筋曰ク鼻部筋曰ク口部筋曰ク下顎筋是レナリ

顔部諸筋



属スルモノハ
 眼瞼輪走筋維
 眉筋眼瞼舉筋
 ナリ乙鼻部ニ
 属スルモノハ
 鼻梁筋鼻翼拏
 下筋等ナリ丙
 口部ニ属スル
 モノハ環口筋
 固有上唇舉筋
 口角舉筋喇叭

筋口角拏下筋下唇拏下筋等ナリ丁下顎ニ属スル
 モノハ咀嚼筋顳顬筋外翼状筋内翼状筋ナリ

第二章 胸骨

胸骨ハ脊柱及ヒ胸膛ヲ構成スルモノナリ故ニ之
 ノ脊柱骨ト胸膛骨ノ二様ニ區別ス

其一 脊柱骨

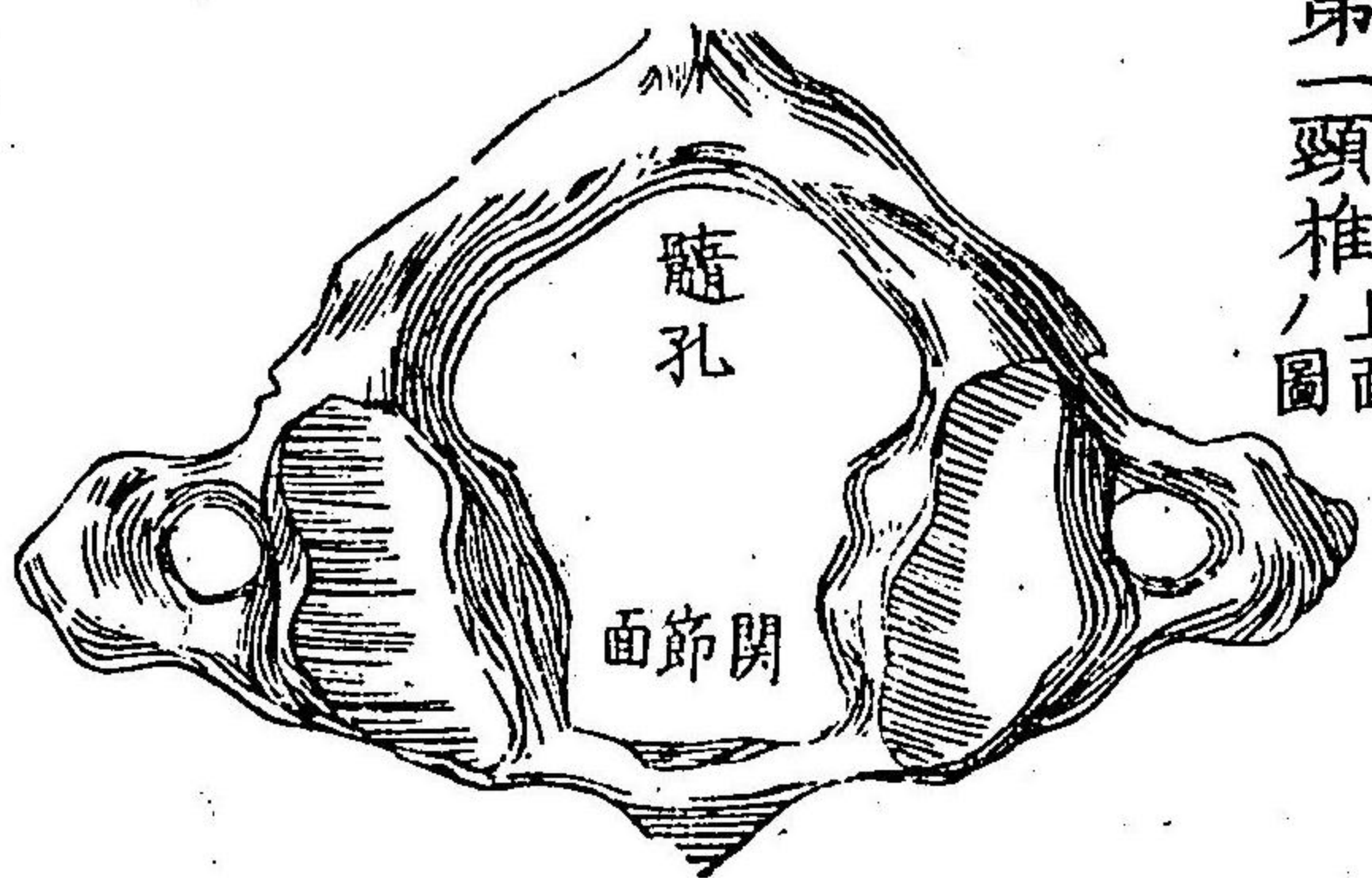
脊柱骨ハ軀幹ノ中央後部ニ位シ以テ之レカ基礎
 トナル是レ七個ノ頸椎ト十二個ノ背椎ト五個ノ
 腰椎ト并ニ八膠骨尾骶骨ノ両骨ヨリ成ル詳ニ之
 ヲ言ヘハ二十六個ノ椎骨相重疊シ以テ全脊柱ヲ
 構成スルモノタリ是故ニ脊柱ヲ區別メ頸部背部

腰部ハ膠部ノ四部トナスナリ
脊柱ハ其形真直ナルモノニアラスメ四部ノ屈曲
アリ乃チ頸部腰部ハ前方穹隆ニメ背部ハ膠部ハ
前方陷凹ナリ

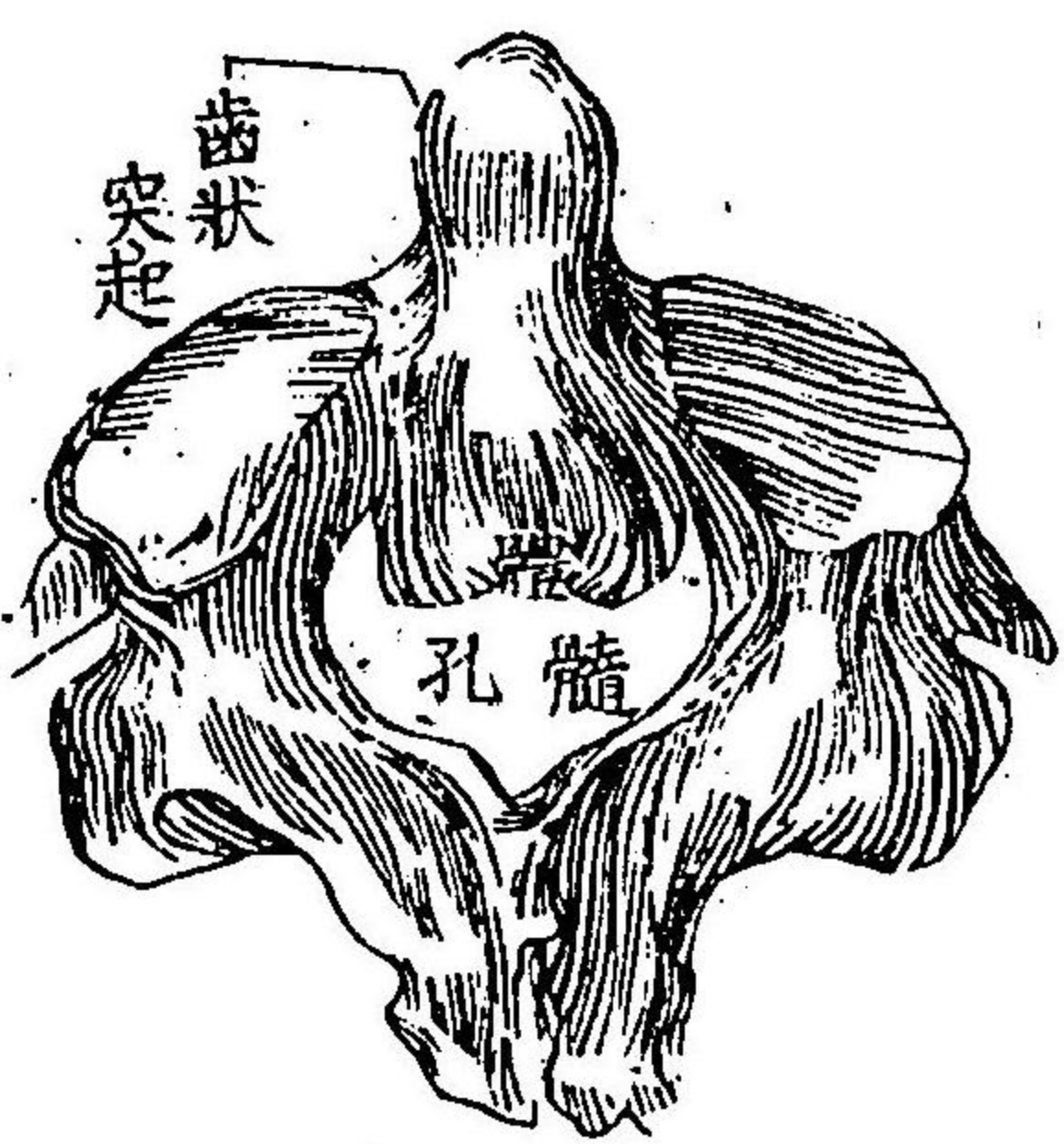
脊柱ノ上端ハ即チ第一頸椎ナリ此第一頸椎ニ由
テ後頭骨ノ顆狀突起ト連接シ又チ第一頸椎ハ第
二頸椎ト連接シ以テ運動關節ヲナスモノナリ頸
左右ニ運轉スルハ全ク此第一
第二頸椎ノ關節機能ニ因ル
脊椎ヲ大別メ真椎假椎ノ二般トス真椎トハ頸背
腰ノ三椎ヲ云ヒ假椎トハハ膠骨尾髓骨ノ二椎ヲ
云フナリ

真椎假椎ハ共ニ各其中心ニ於テ一孔ヲ有セリ之
ヲ髓孔ト云フ故ニ全脊柱ニテ一ツノ長管ヲナシ
以テ脊髓ヲ容ル、ニ供フ又チ椎骨ノ兩側ニ於テ

第一頸椎ノ上面

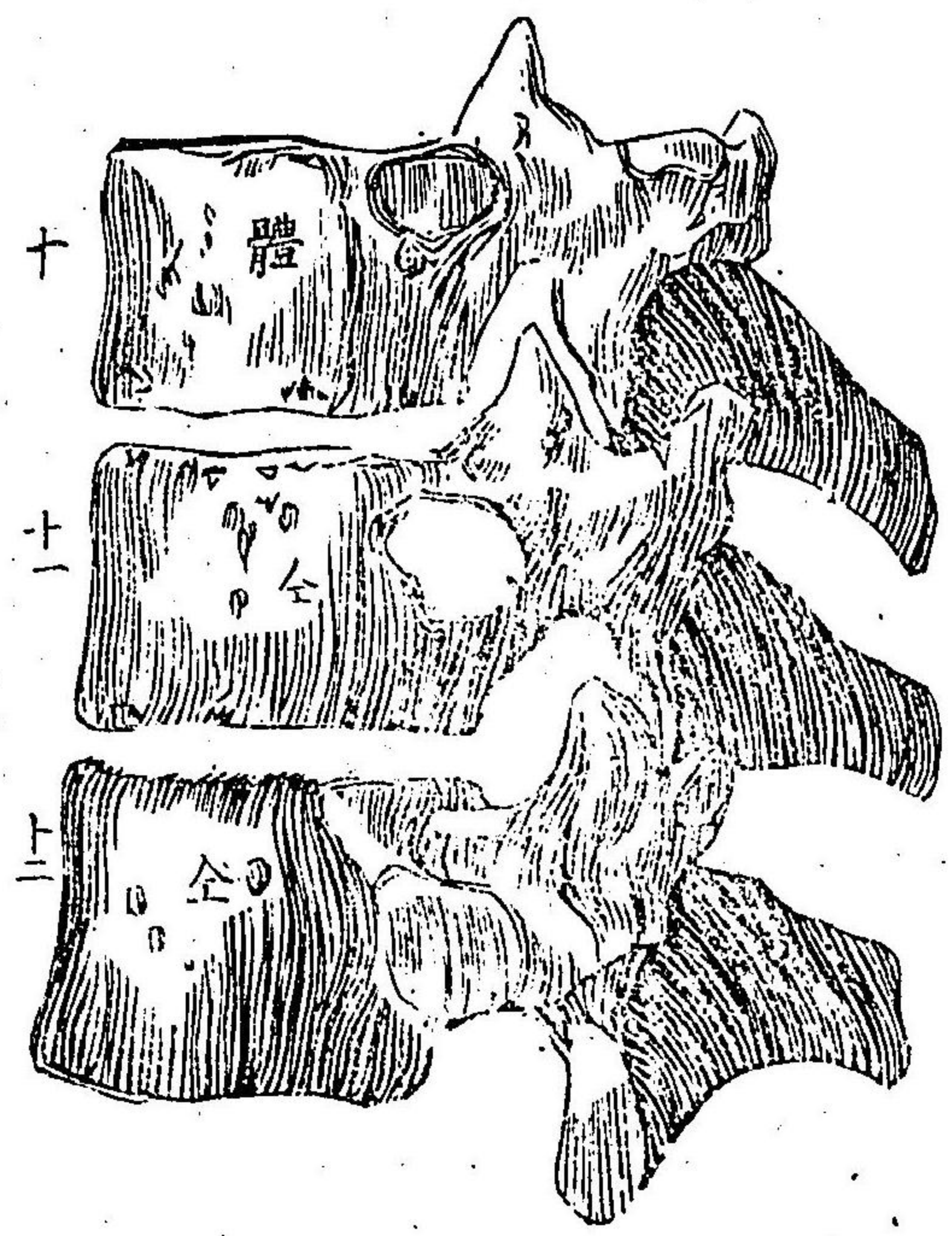


第二頸椎ノ上面



上下二骨ヨリ
形成スル所ノ
孔アリ之ヲ椎
間孔ト云フ是
レ脊髓神經ノ
通路ナリ
真椎ハ各骨粗
ボ其形ヲ齊フ

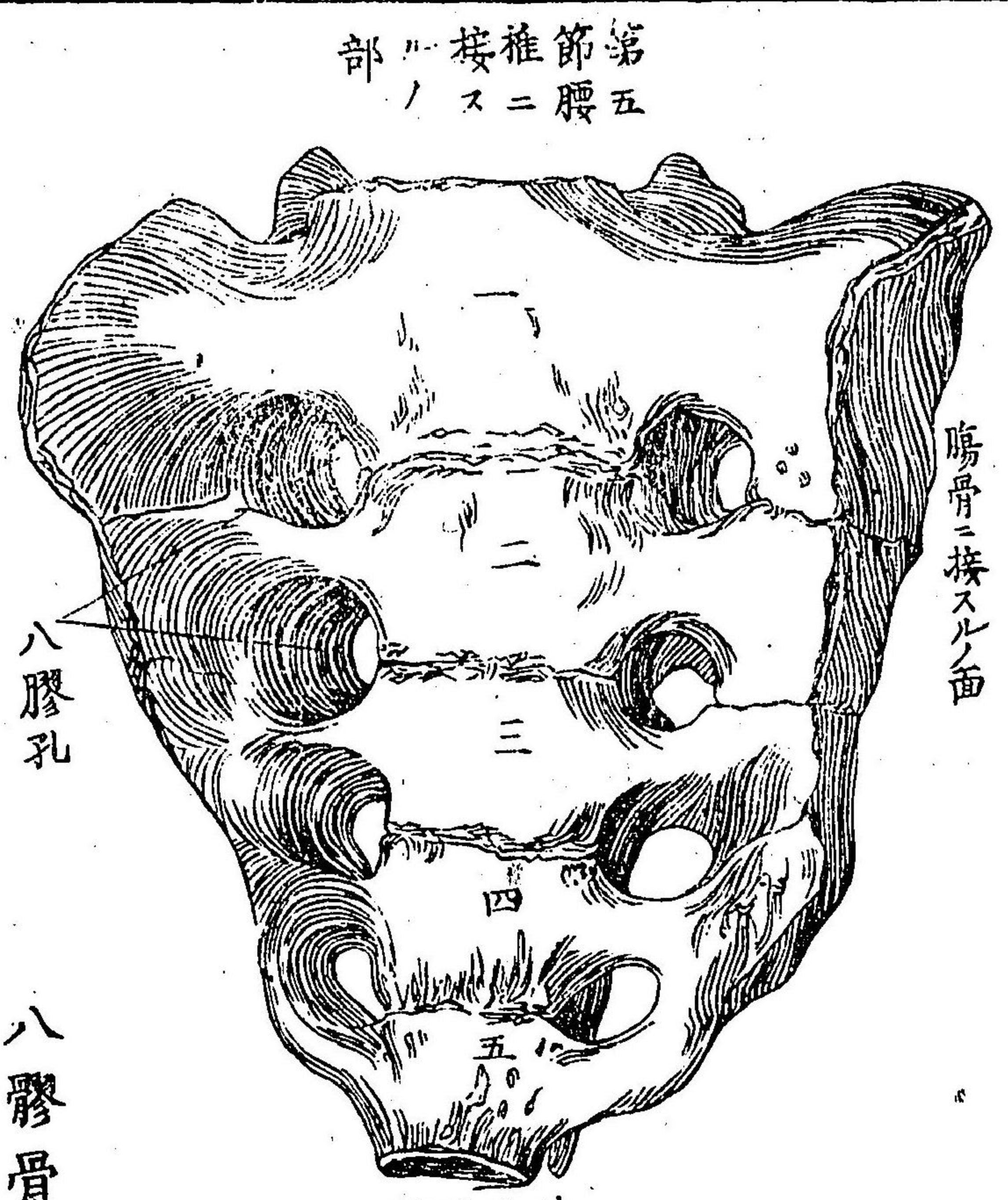
セリ然レ氏第一及ヒ第二頸椎ハ大ニ其形ヲ異ニ
 ス之レ他椎ト其功用ノ同シカラサルニ因ル乃チ
 第一頸椎ハ骨體ヲ有セスメ其髓孔恰モ葫蘆ノ形
 ノ如シ而メ其廣孔ニ
 ハ脊髓ヲ通シ其狹孔
 ニハ次節即チ第二頸
 椎ノ齒狀突起ヲ會ニ
 以テ頭ヲメ轉顧靈活
 ナラシム又々第二頸
 椎ハ其骨體ヨリ上方
 ニ直立スル突起アリ



背椎連接ノ側面ノ圖

ノ如シ而メ其廣孔ニ
 ハ脊髓ヲ通シ其狹孔
 ニハ次節即チ第二頸
 椎ノ齒狀突起ヲ會ニ
 以テ頭ヲメ轉顧靈活
 ナラシム又々第二頸
 椎ハ其骨體ヨリ上方
 ニ直立スル突起アリ

八膠骨ノ前面ノ圖



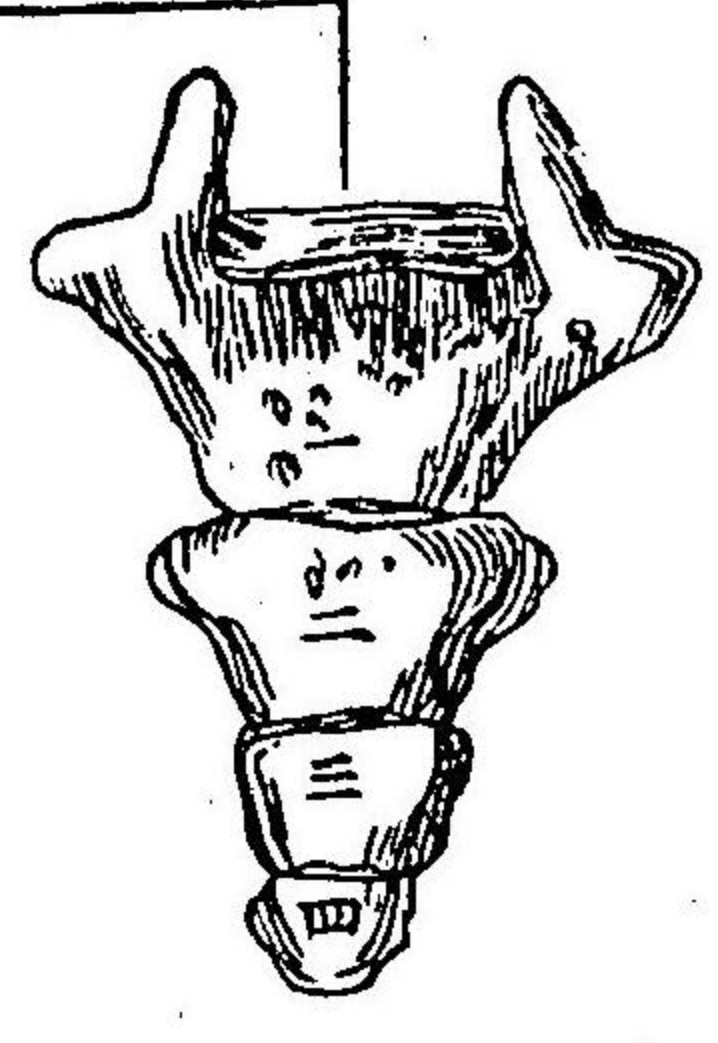
喉骨ニ接スルノ面

之ヲ齒狀突起ト云フ此突起ハ第一頸椎ノ葫蘆形孔ノ前部即チ狹孔中ニ突入シ以テ運轉機能ヲ管ムヲ猶門扇ノ如シ

八膠骨ハ原五個ノ椎

骨ヨリ成ルモノナリト雖凡五ニ相癒合ノ一體ト
 ナレリ故ニ之ヲ一骨ニ算ス此骨亦真椎ノ如ク髓
 孔アリテ脊髓ノ尖端ヲ通シ八膠骨孔アリテ脊髓神經ヲ
 通セシム而ノ上ハ腰椎ノ最下節即第五節ニ接シ兩
 側ハ耳形ノ關節面アリテ腸骨ニ接シ下ハ尾骶骨

尾骶骨 前面
ノ圖

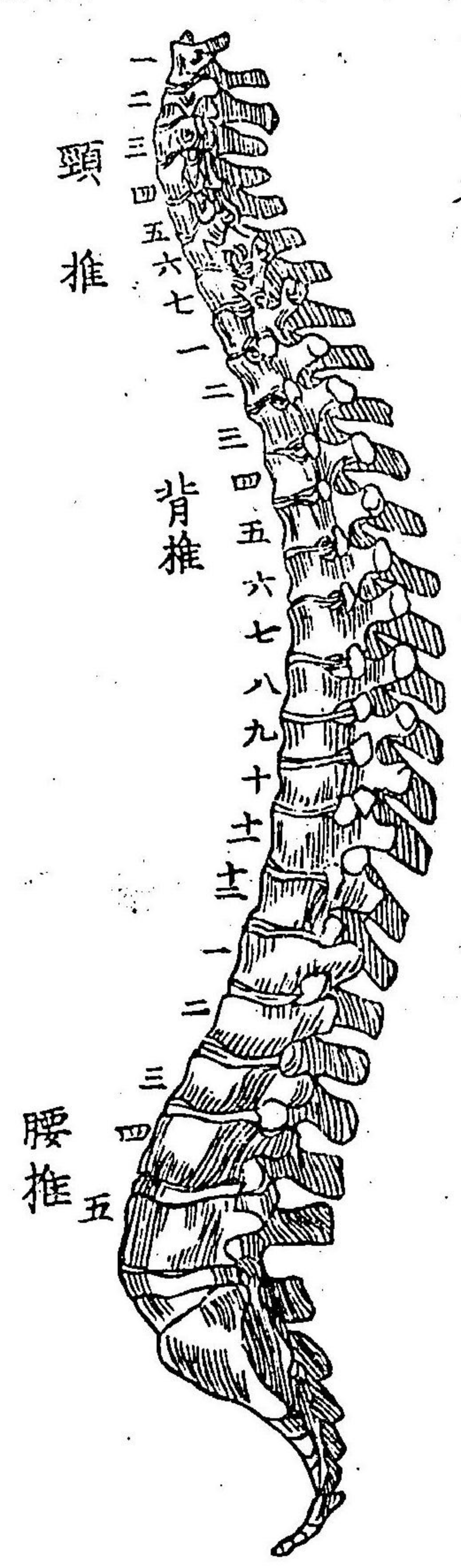


此面ハ膠骨ニ接ス

ニ接ス
 尾骶骨ハ八膠骨ノ下端ニ接ス
 ルモノニノ脊柱ノ最下部タリ
 之レ亦四個ノ椎骨ヨリ成レリ
 然レ凡連接ノ一體トナレルヲ
 以テ之ヲ一骨トナス此骨人體

ニ於テハ殆ト用ナキモノ、如シト雖凡獸類等ニ
 於テハ甚々緊要ノモノナリ
 以上説ク所ノ脊柱ハ即チ椎骨ノ重疊ヨリ成ルモ
 ノニノ種々ノ靱帶ニ因リテ繋着セラル、ナリ而
 ノ此脊柱ハ直立ナルモノニアラスノ蛇行狀ニ屈

脊柱圖

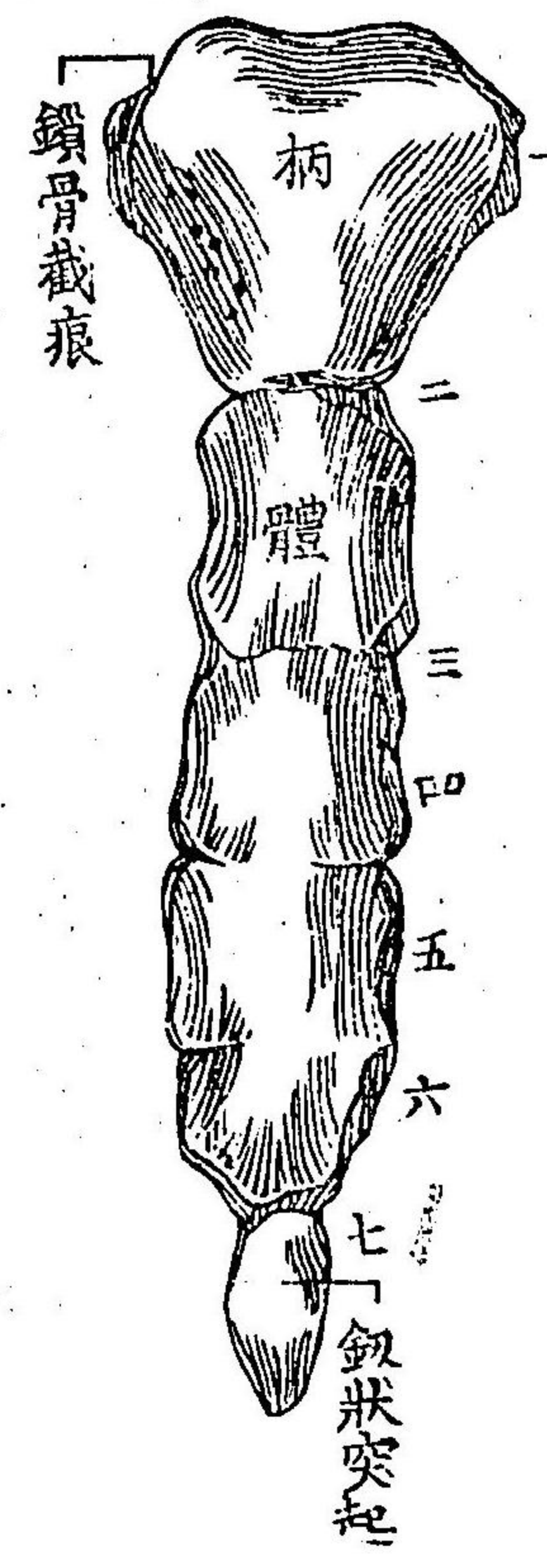


曲ス此レ脊柱ニ受ル所ノ劇動ヲ直ニ頭腦ニ達セ
サラシノ加之胸腹ノ諸臟ヲ擁護スルニ便スルモ
ノナリ

其二胸膈骨

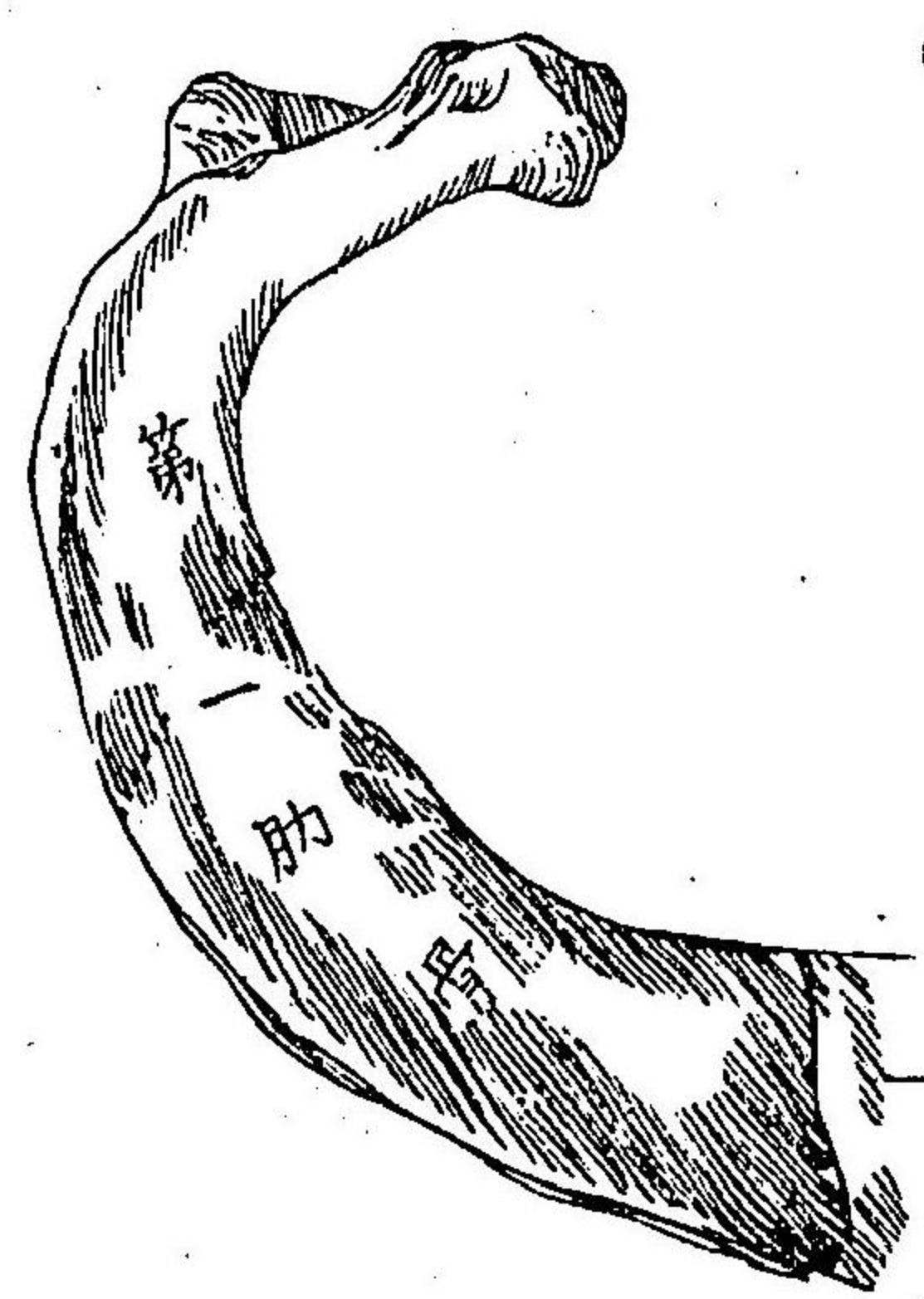
胸膈骨トハ一枚ノ胸骨ト二十四枚ノ肋骨ヲ云ナリ
胸骨ハ柄ト體ト劍狀突起ノ三部ニ分カテリ乃チ

胸骨 前面ノ圖

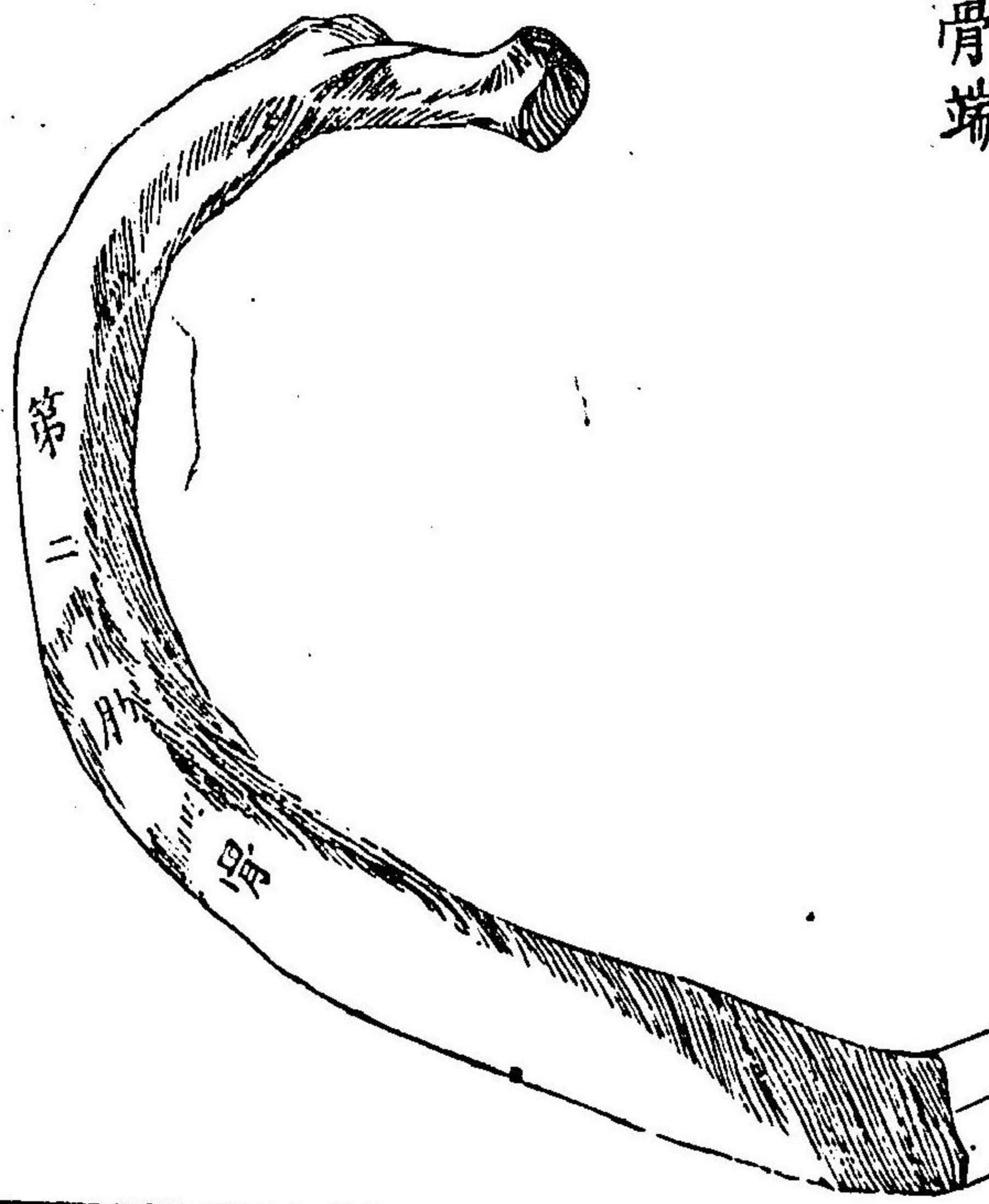


柄トハ骨ノ上端ニノ最モ廣大ナル部分ヲ云フ此柄ノ兩側ニハ左右各

一個ノ截痕アリ此レ鎖骨ニ上肢骨部内端ノ連接ス
ル處ナリ劍狀突起トハ骨ノ下端ニメ其尖端恰モ
劍狀ヲナシ以テ腹腔ニ向ヒ下垂スルモノナリ體
トハ柄ト劍狀突起トノ中間ヲ云フ而メ體ハ三部
中最モ長形ニメ其兩側ニ於テ各七個ノ截痕アリ
此レ肋軟骨ノ連接スル處ナリ
肋骨ハ左右合セテ二十四枚アリ此骨ハ脊椎骨ト
胸骨トノ間ニ位スルモノニメ其後端ハ直ニ脊柱
骨中ノ背椎ニヨリテニ接シ其前端ハ各軟骨ニ終
リ以テ胸骨ノ兩側ヲ有スル截痕中ニ嵌入ス但シ
其胸骨ニ接スルモノハ一ヨリ七ニ至ルノ肋骨ニ

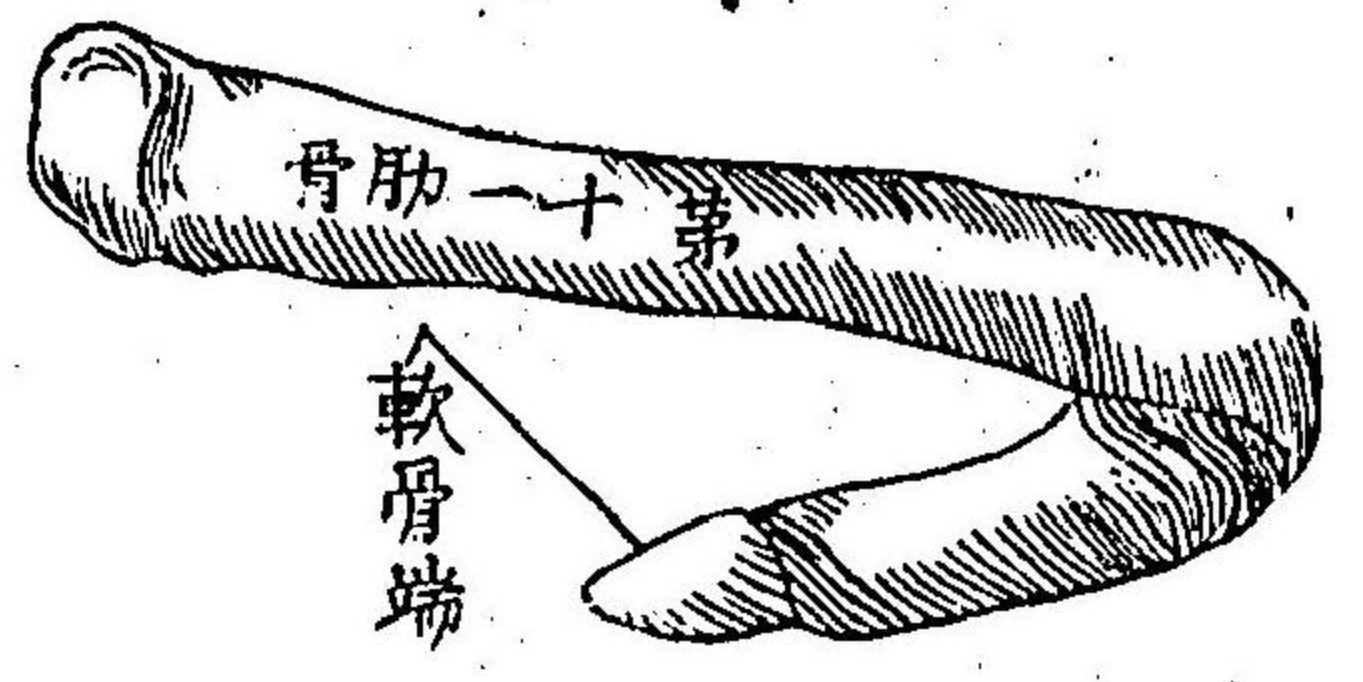


軟骨端

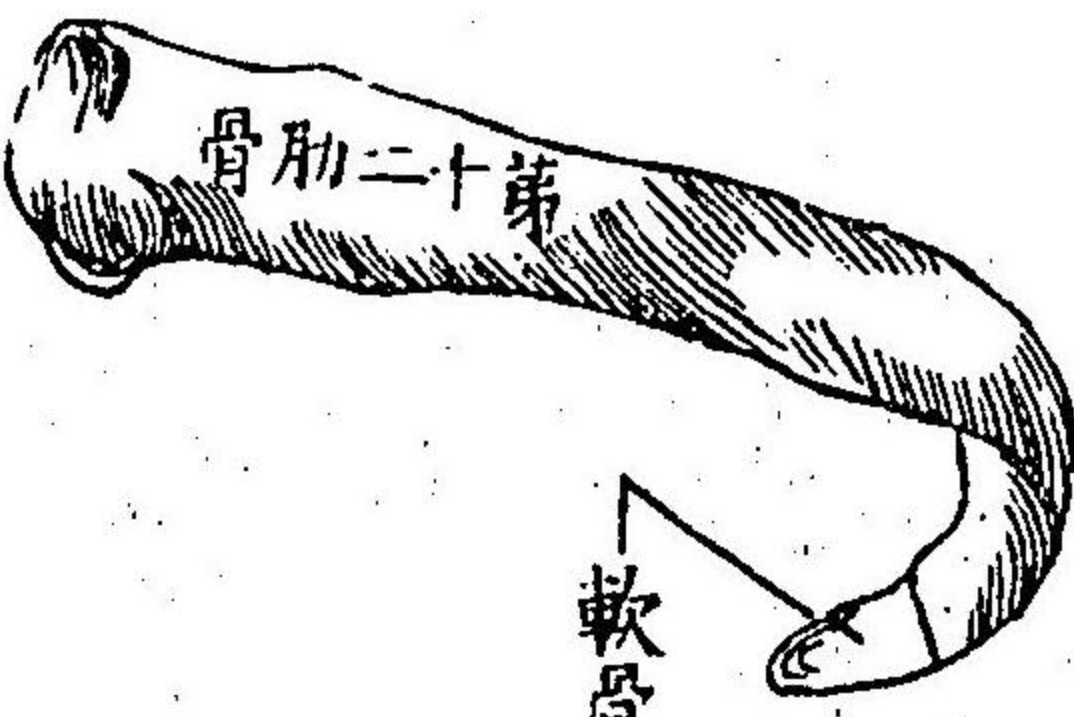


軟骨端

シテ之ヲ真肋骨ト云フ餘ノ五枚ハ直ニ胸骨ニ接
セスメ互ニ上位ノ肋軟骨ニ頼リ以テ連接ス依テ



軟骨端



軟骨端

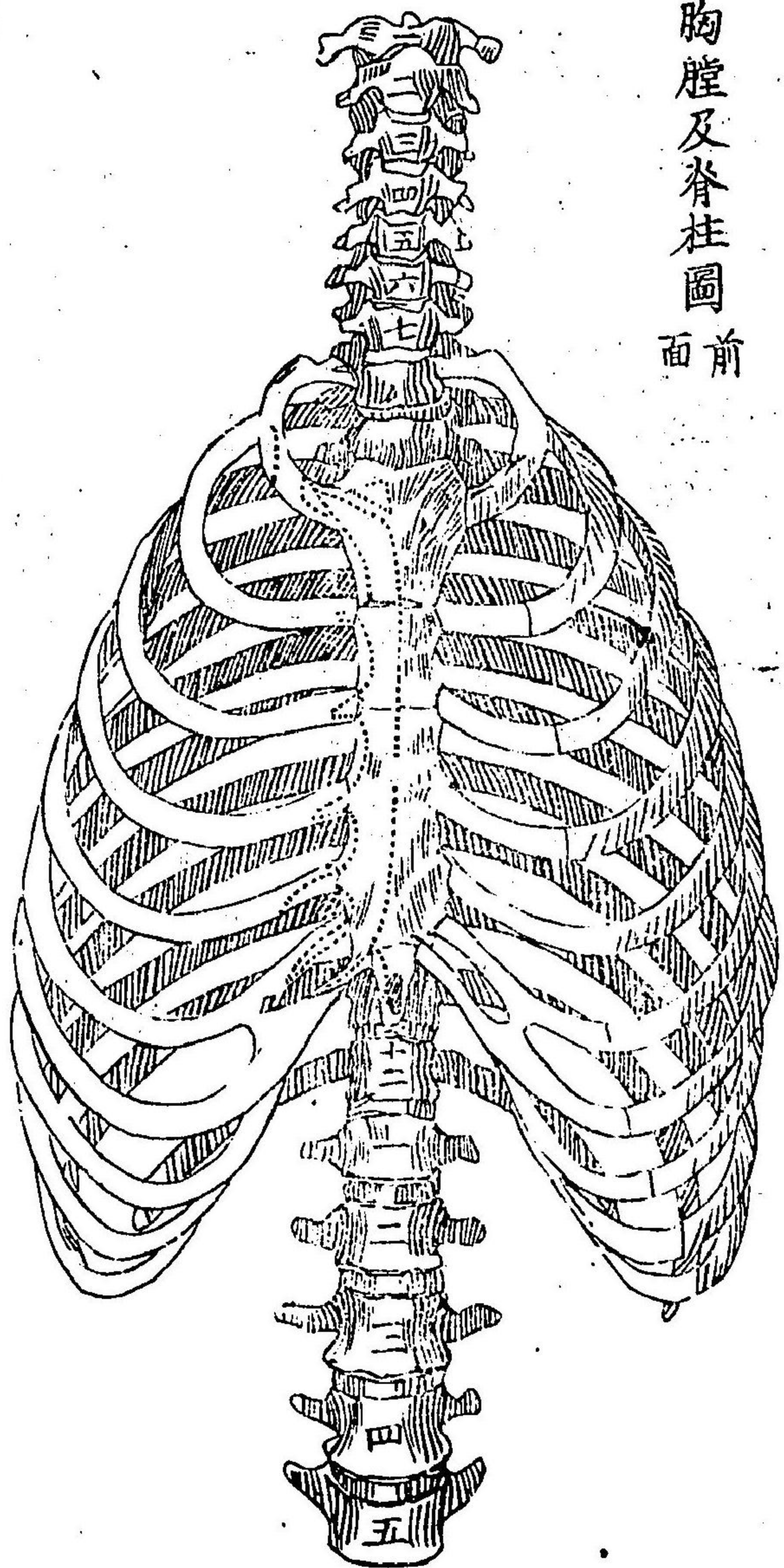
之ヲ假肋骨ト云フ就中
十一十二ノ肋骨ハ軟骨
端共ニ固着セスメ腹筋
ノ間ニ遊離ス故ニ更ニ
之ヲ名ケテ浮肋骨ト云
フ

上ニ論スル所ノ脊柱骨

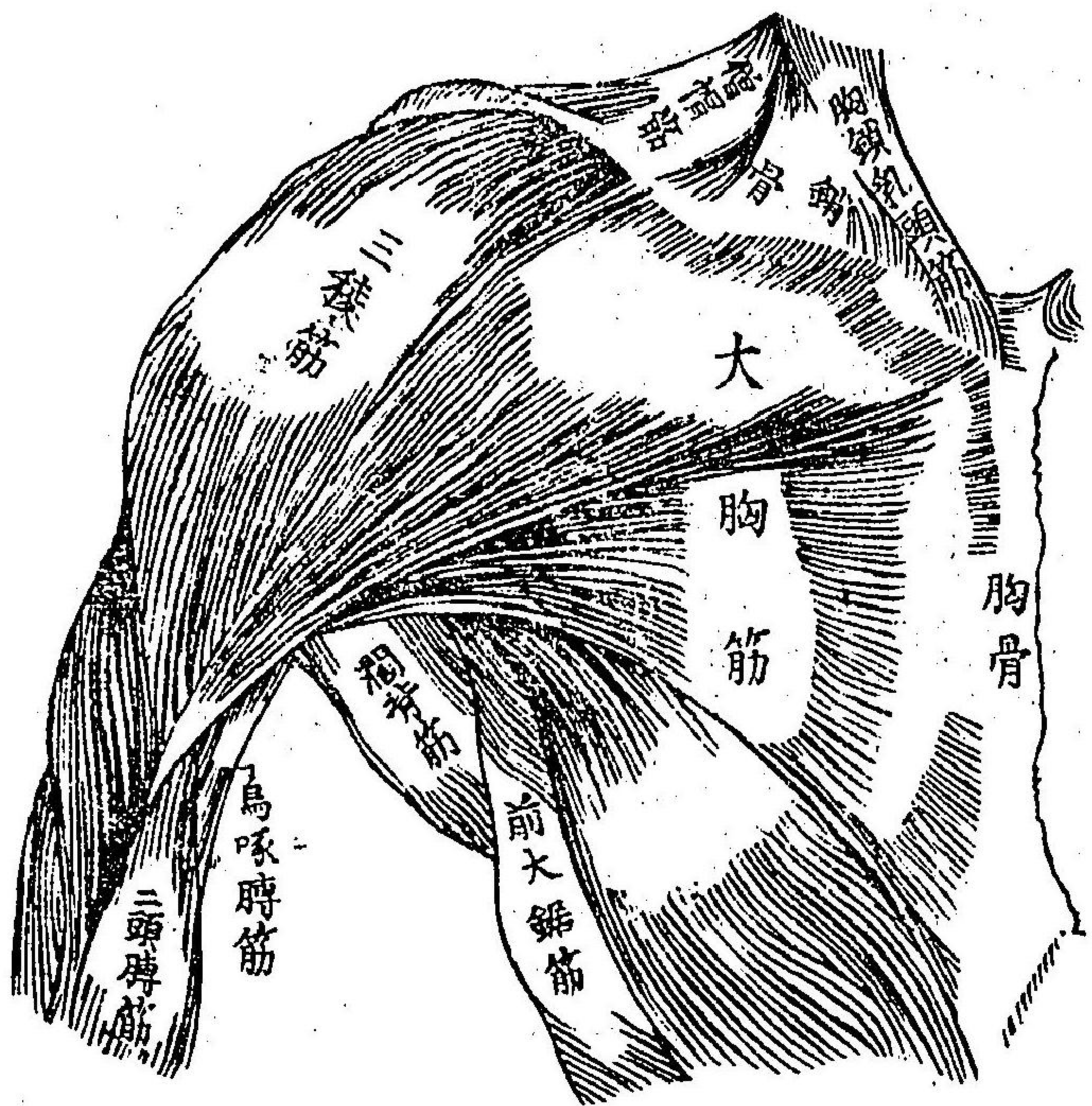
胸骨及ヒ肋骨ノ三骨ハ結構メ胸腔ヲ形成ス此胸
腔ノ内空ヲ胸腔ト曰フ胸腔ハ即チ心肺兩臟ヲ擁
護スルノ貴要部ナリ而メ心肺ノ兩臟ハ共ニ張縮
ノ機能アルヲ以テ胸腔モ亦收放メ其内容ヲ廣狹

セサルヲ得ス然レ尺骨ハ堅剛ニメ然ク伸縮スベ
キモノニアラス故ニ肋骨ノ前端軟骨ヲ設ク以テ
其伸縮ノ用ニ供ス此レ造化自然ノ妙ナリ又夕假

胸膛及脊柱圖前



胸筋第一層



肋及浮肋ハ胸腔ノ
擁成ニ於テ甚夕緊
要ナラサルモノ、
如シト雖尺自テ其
用トスル所アリ乃
チ甲ハ胃肝脾等ノ
一部ヲ被ヒ乙ハ腎
臟ヲ護スルモノ夕
リ
胸膛ハ又夕其外面
數多ノ筋ヲ以テ被

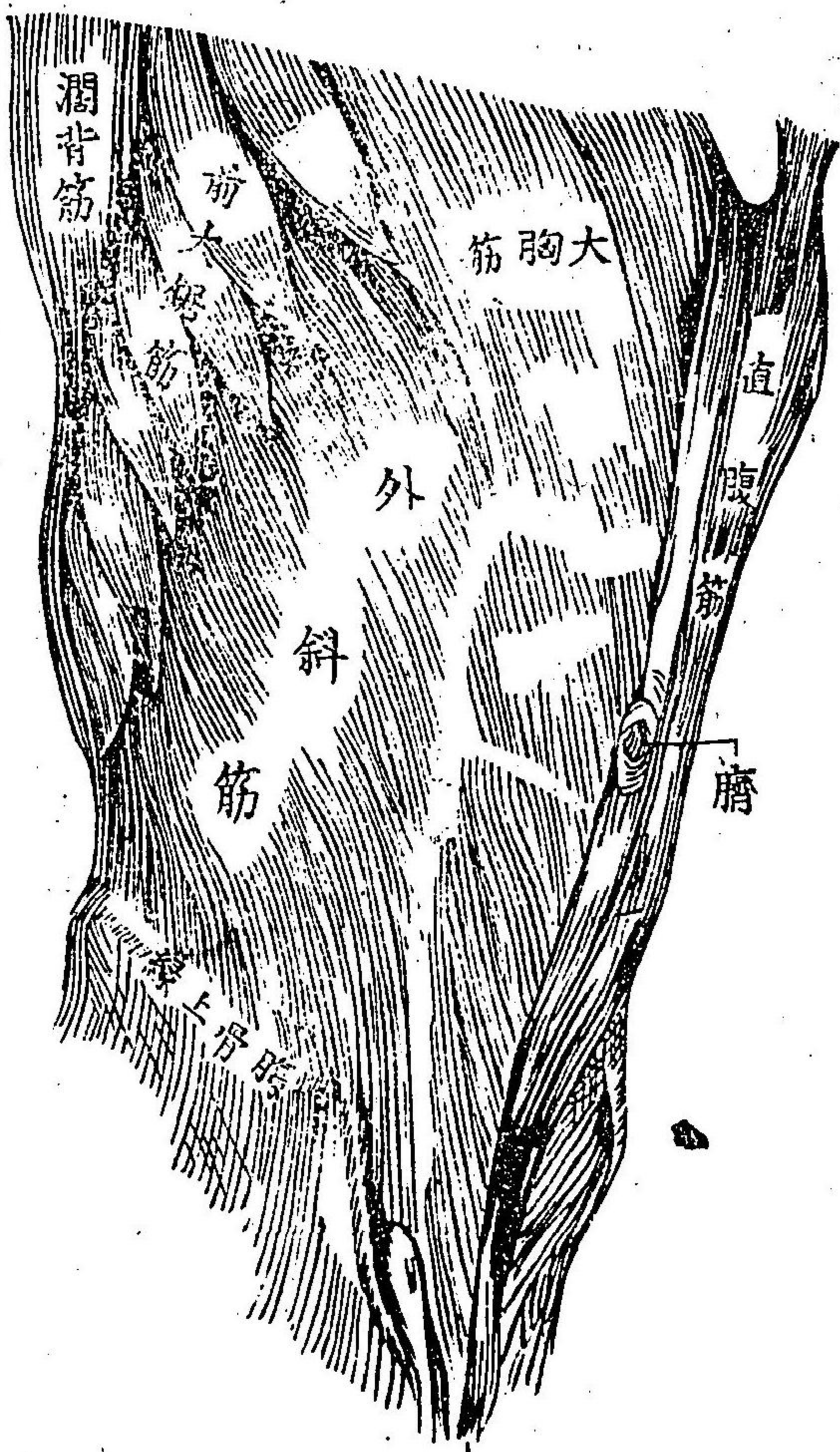
覆セラレ其前面即チ胸部ニ於テハ大胸筋小胸筋
 前大鋸筋内肋間筋外肋間筋等アリ又々其後面即
 胸筋第二三層



チ背部ニ於テハ棘間筋頸棘筋背棘筋後上鋸筋後下鋸筋僧帽筋潤背筋等アリ是等ノ諸筋ハ共ニ皆ナ、胸膛ノ周圍ニ附着ノ或ハ

呼吸機ヲ助クルアリ或ハ上肢ノ運動ヲ主ルアリ
 或ハ脊柱ノ屈撓ヲ營ムアリ例ノ之ヲ言ヘハ大胸

腹部諸筋



恥骨縫際

筋ハ上肢ヲ前方ニ屈シ潤背筋ハ之ヲ後方ニ牽ク又夕後上鋸筋

ハ肋骨ヲ舉揚ノ吸氣ヲ助ケ後下鋸筋ハ之ヲ挈下
 ヲ呼氣ヲ促ス
 既ニ胸腔造構ノ大概ヲ記載シタルハ從テ茲ニ腹
 腔ノ造構ヲ略説セントス夫レ腹腔ハ上ハ横隔筋
 ヲ以テ胸腔ト界シ下ハ骨盤腔ニ終ル而シ其後壁
 ハ腰椎及ヒ腰筋ヲ以テ形成シ其前壁及ヒ兩側壁
 ハ腹筋ヨリナルナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ腹腔ハ
 其支柱トナルモノ唯其後部脊骨ノ一部腰推アルノ
 ミニ之ヲ胸腔ニ比スレハ甚タ柔弱ナルモノト
 ス但シ其前兩側ノ三壁ヲ形成スル所ノ筋六種ア
 リテ則チ横腹筋内斜筋外斜筋直腹筋腹方錐筋及

ヒ方腰筋是レナリ然リ而シ此六筋ノ外面ハ一般
 ノ皮膚ヲ以テ覆ヒ又々其内面ニハ横筋鞘ト名ク
 ル膜様ノモノアリ此筋鞘ノ内部ハ直ニ腹膜トナ
 ルナリ

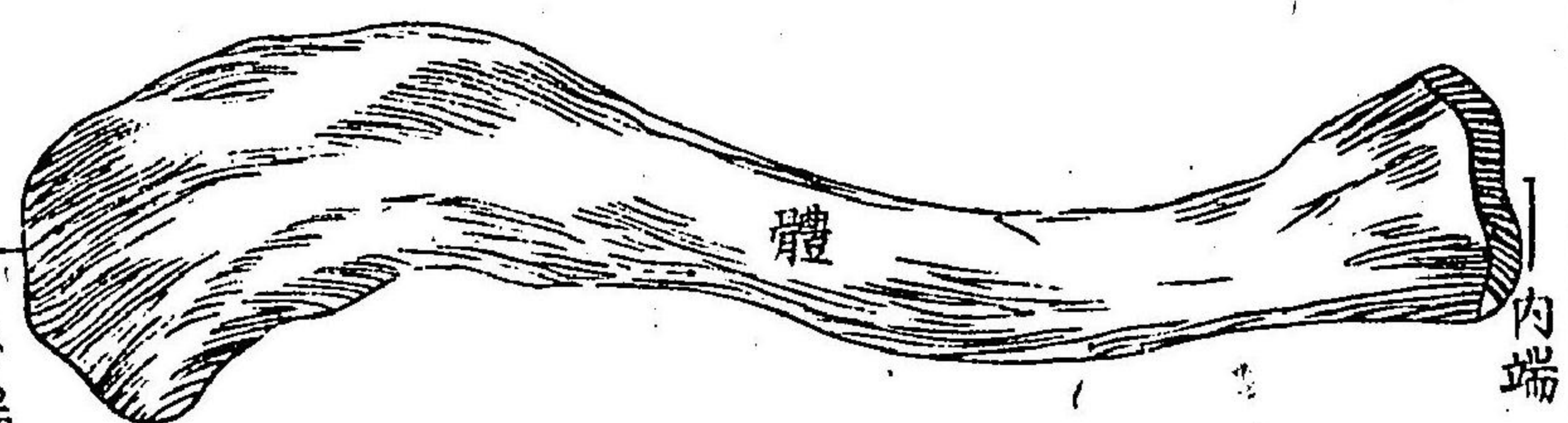
第三章四肢骨

凡ソ四肢ニ於テ營々所ノ力量ハ其動物ノ異ナル
 ニ從ヒ自カラ差アリ乃チ下肢七分ノ力量アリテ
 上肢三分ノ力量ヲ有スルモノアリ或ハ之レニ及
 スルモノアリ或ハ上肢下肢等分ノ力量ヲ存スル
 モノアリテ一定ナラス然リ而シ人類ノ下肢ハ腰
 骨ト股骨トノ關節ニシテ其上肢ハ肩胛骨ト上膊骨

トノ關節ナルヲ以テ下肢ハ上肢ニ比スレハ其連接甚緊密ニ其力モ亦從テ強大ナリ故ニ生理家人類ハ他ノ獸類ト齊ク匍匐スベキモノニアラスノ全ク直立直行ヲ為スベキ自然ノ體格ヲ具ヘリト云フ今此四肢骨ヲ論スルニ方テ之ヲ上下ノ二肢ニ分ツ之レ一般ノ法ナリ

其一上肢骨

左右ノ上肢ハ肩部上膊部前膊部即下臂及ヒ手部ノ連接ニ由テ成ルモノナリ然レ此四部ノ中心タルモノハ即チ肩骨上膊骨前膊骨及ヒ手骨ノ四種ナリ而シテ手骨ハ更ニ分ケテ手根骨中手骨及ヒ指



骨ノ三種トス

甲肩骨

肩骨トハ鎖骨肩胛骨ノ兩骨ヲ云フナリ

①鎖骨

鎖骨ハ左右合セテ二枚アリ骨形稍屈曲ノ體ト内外ノ兩端ト有ス乃チ其外端ハ薄ノノ肩胛骨ニ接シ内端ハ厚フメ胸骨柄部ノ截痕中ニ嵌入ス而シテ體トハ内外兩端ノ中間部

外端ヲ云フナリ抑モ此鎖骨ハ胸骨ト肩

左骨胛骨
後面
ノ圖



胛骨トノ
間ニ横居
シ以テ肩
膊ヲ鎖歴
シ之ヲノ
開豁ナラ
シメ傍ヲ
兩手ノ運

動ヲ助クル所以ノモノナリ

肩胛骨

肩胛骨ハ扁平三角形ノ骨ニシテ左右各一個アリ而

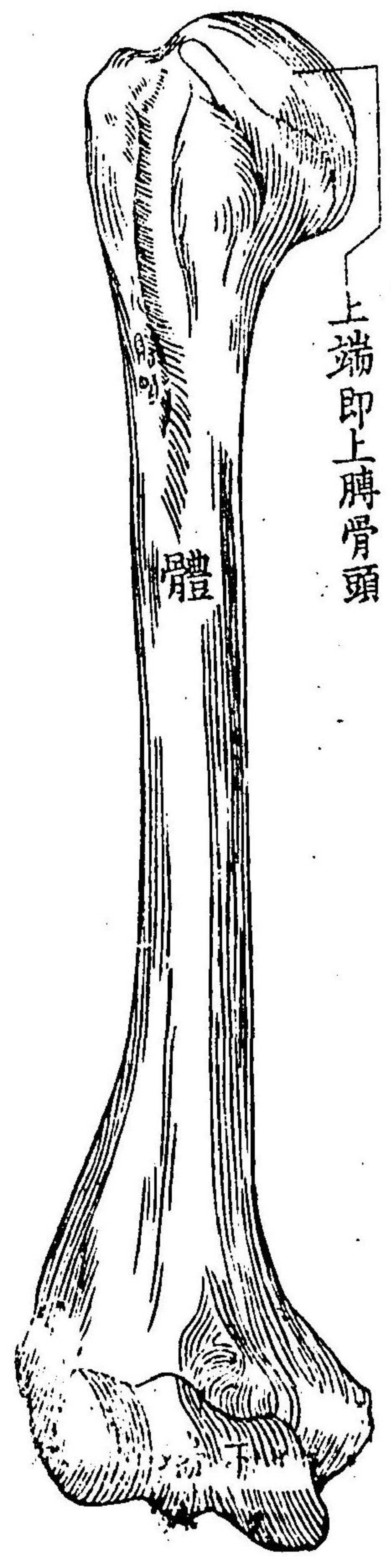
ノ其前面ハ胸部ニ向ヒテ階凹ナリ後面ハ背部ニ
向ヒテ凸隆ナリ此凸隆面ニ大稜起アリ之ヲ肩胛
棘ト名ク肩胛棘ハ更ニ上リテ長大扁平ノ突起ニ
終ル之ヲ肩胛突起ト名ク此突起ノ直下ニハ上膊
骨頭ヲ含ミ以テ其頭ノ上腕ヲ防クモノナリ
上記ノ胸骨鎖骨肩胛骨ノ接合モ亦數多ノ鞏帶ヲ
備ヘ以テ繋着固持セシム

乙上膊骨

上膊骨ハ左右各一枝アリ此骨上肢中最大ノ骨ニ
シテ體ト兩端トヲ有ス乃チ其上端ハ球形ニシテ
上膊骨頭ト名ク此レ肩胛骨ノ肩胛突起ニ接スル

モノニノ此連接ヲ肩胛關節ト名ク又々其下端ハ
稍廣クノ扁平ナリ此扁平ナル處ハ即テ關節面ニ

右上膊骨 前面ノ圖



メ甚タ滑澤ナリ而ノ此面ノ中央ニ一隆線アリテ
内外ヲ上ト内外ヲ取ルハ掌面ノ二面ニ分カテリ乃
チ其内面ハ尺骨ニ接シ外面ハ橈骨ニ接スルモノ
トス

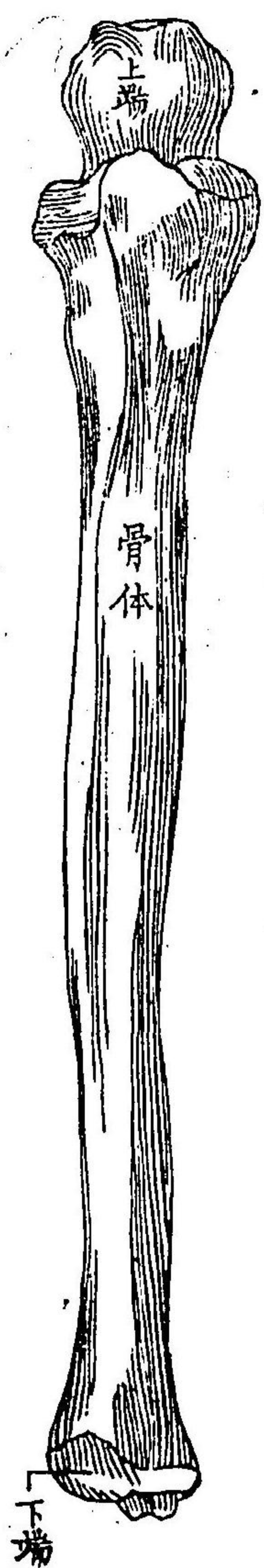
丙 前膊骨

前膊骨トハ尺骨橈骨ノ二骨ヲ總稱スルモノナリ

① 尺骨

尺骨亦タ左右各一枝アリテ前膊ノ内側ニ位スル
モノナリ而ノ此骨ノ形容ハ真直ナラスノ稍々彎

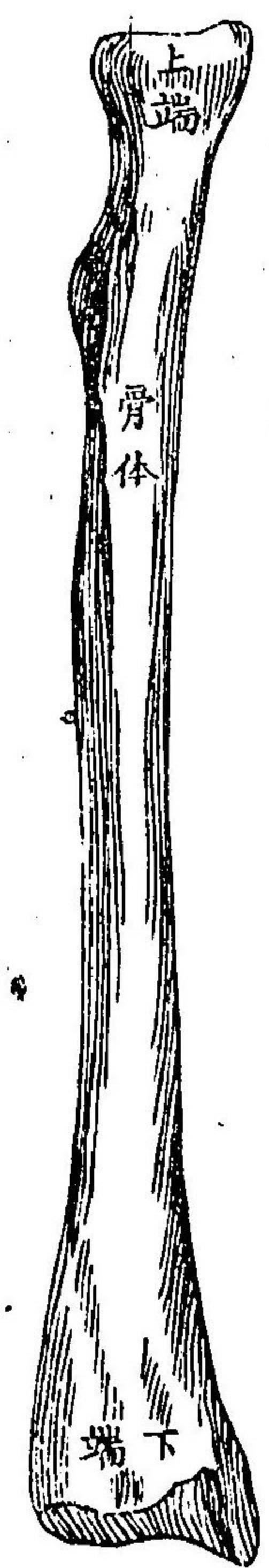
右尺骨 前面ノ圖



曲セリ又々其上端ハ大ニメ上膊骨下端ノ内關節
面ニ接シ其下端ハ小ニメ腕骨ニ接スルモノナリ

㊦ 撓骨

撓骨亦々尺骨ト同ク左右各一枝アリ而ノ此骨ノ
 形狀ハ殆ト尺骨ノ及對ニノ其上端ハ小ニノ下端
 ハ大ナリ小ナル上端ハ上膊骨ノ外關節面ニ接シ
 右撓骨 前面 大ナル
 骨体



右撓骨 前面 大ナル
 下端ハ
 腕骨中

ノ船様骨ト半月様骨トニ接スルモノナリ
 以上撓尺二骨ノ両上端ト上膊骨下端トノ連接ヲ
 臂關節ト云ヒ又此二骨ノ下端ト腕骨トノ連接ヲ
 腕關節ト云フ

丁手骨

① 腕骨 即手根骨

腕骨ハ細小ナル短骨ナリ總數八個 左右合セアリ
 テ撓尺二骨ノ下端ニ接ス而ノ此骨ハ三列トナリ
 以テ手根ヲ形成スルモノナリ乃チ其第一列トハ
 撓尺ニ骨ニ接スル四個ノ腕骨ヲ云ヒ又々其二列
 トハ一列ノ次ニ位シ中手骨ニ接スル四骨ヲ云フ
 ノ腕骨トハ船様骨半月様骨楔狀骨黎豆骨ヲ云ヒ
 其第二列ノ腕骨トハ大多稜骨小多稜骨巨骨鉤狀
 骨ヲ云フ今茲ニ此諸骨ノ形狀位置等ヲ論セス且
 シク圖式ニ就テ知ル可シ

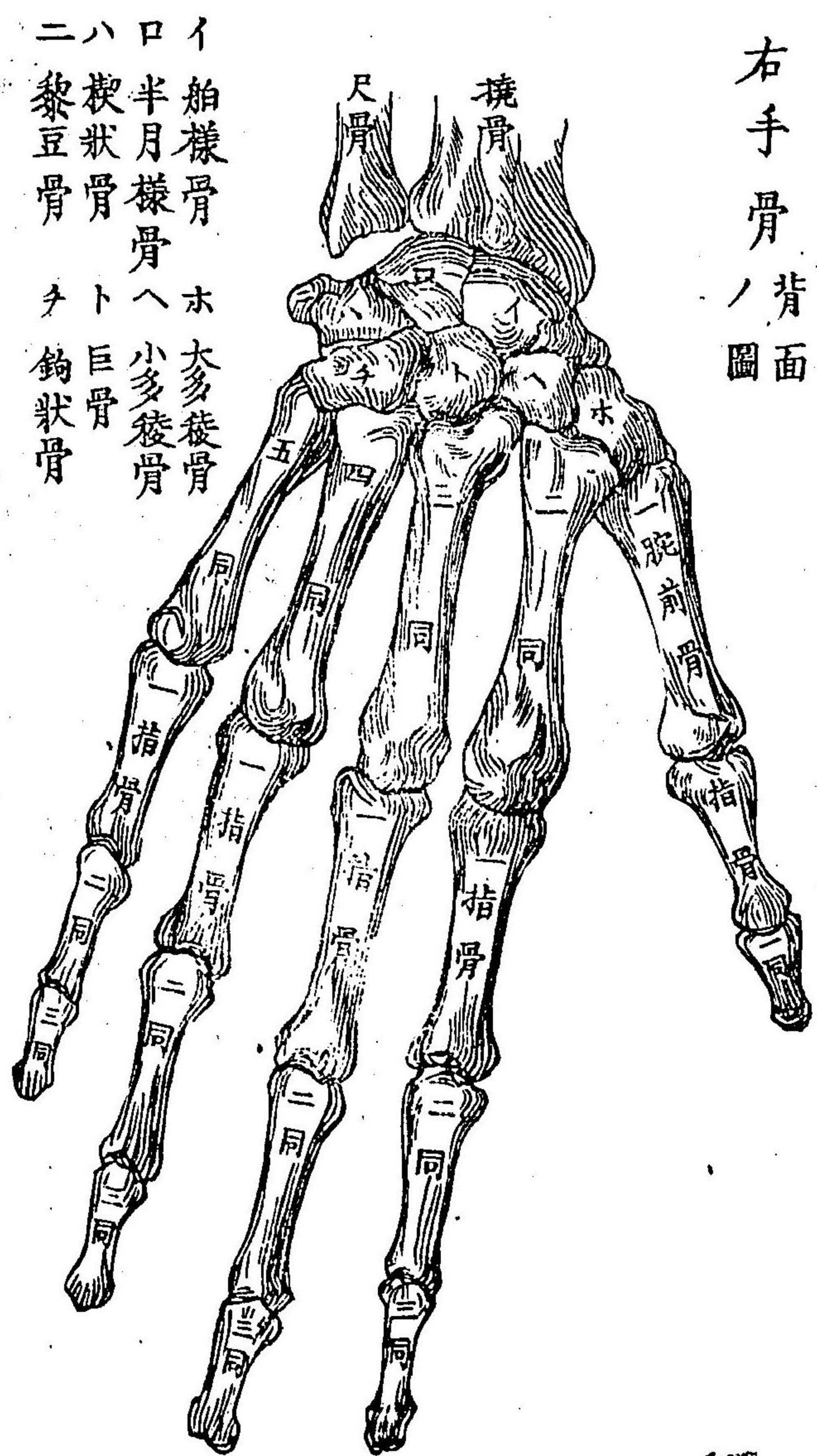
㊦ 中手骨 即腕前骨

上等人體論卷一

三十一 靜岡師範學校藏版

腕前骨ハ両手各五枚ヲ有セリ而ノ其上端ハ腕骨ニ接シ下端ハ指骨ニ接スルモノナリ又々此骨ハ

右手骨ノ背面



イ 舟状骨 ホ 大多接骨
 ロ 半月状骨 ヘ 小多接骨
 ハ 楔状骨 ト 巨骨
 ニ 梨豆骨 ナ 钩状骨

各其名稱ヲ異ニスルモノニノ乃チ拇指ニ接スルモノハ拇指腕前骨ト云ヒ示指ニ接スルモノハ示指腕前骨ト云フ其他ノ骨ニ於ケルモ亦々皆ナ指骨ノ名ヲ冒ノ以テ其名トナスナリ

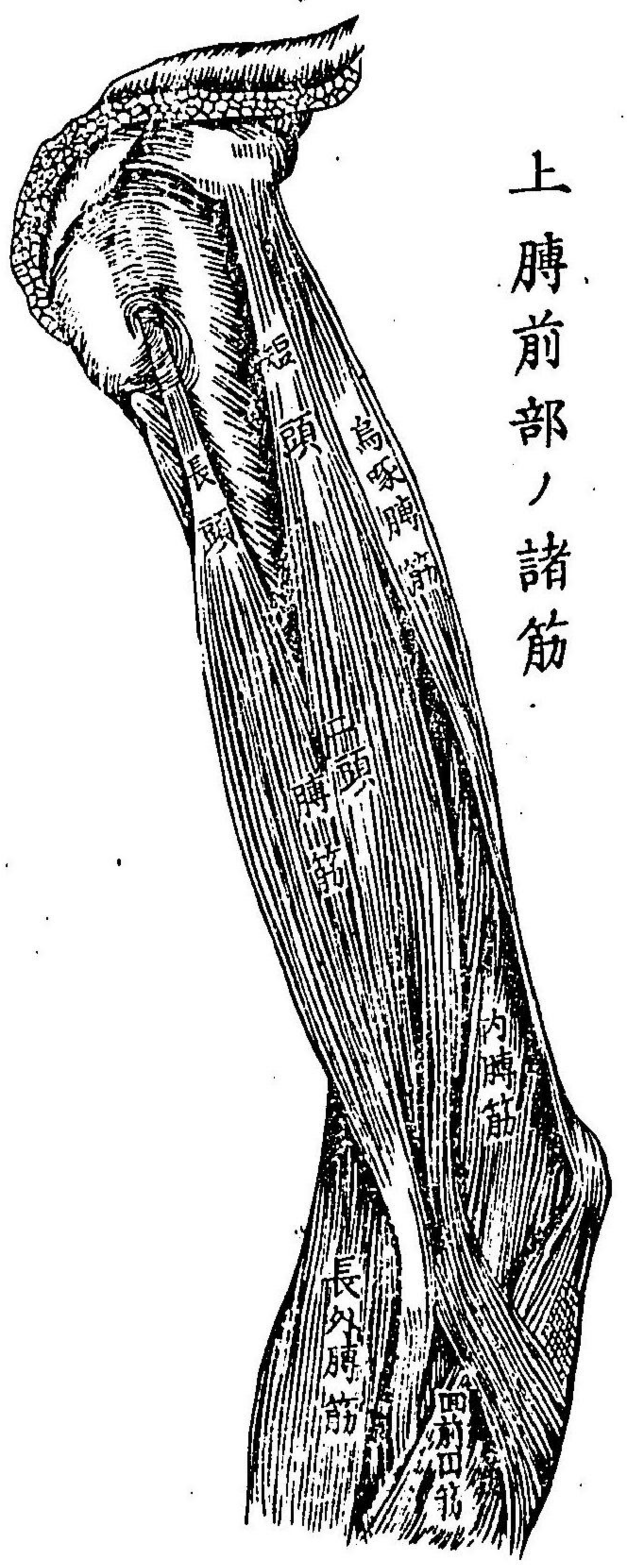
⑧ 指骨

左右ノ指骨ハ各十四枚ヨリ成ルモノナリ乃チ拇指ニハ二節ヲ有シ他ノ四指ハ盡ク三節ヲ有セリ故ニ此節ニ第一第二第三ノ別アリ其第一節ハ腕前骨ニ接スルモノニノ其第三節ハ爪ニ終ル因テ又々之ヲ爪節ト名ク但シ拇指ト拇指腕前骨トノ關節間ニ通例哥菲大ノ小骨二枚ヲ備フ之ヲ名ク

テ種子骨ト云フ而メ種子骨ノ功用ハ筋腱ノ附着
 點トナリ又メ拇指關節ノ滑車トナリ以テ其運轉
 ヲ助クルモノトス然レモ此骨ハ各人其數ヲ同セ
 ス或ハ全ク欠クルアリ或ハ尚多ク有スルアリテ
 一定セス故ニ今此骨ヲ以テ全身骨數ニ算入セサ
 ルナリ

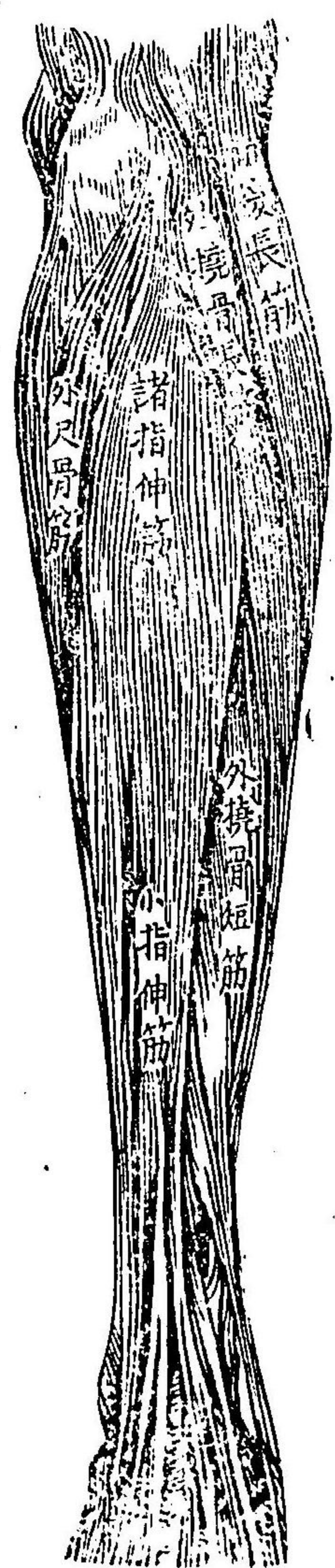
右ニ論スル上肢ノ骨ハ種々ノ靱帶ニテ繫着セラ
 レ又メ數多ノ筋ヲ被ムリテ各種ノ運動内轉外轉
 及ヒ屈伸等
 ヲ為スモノナリ而メ上肢ノ諸筋ヲ區別ノ三部
 トナス曰ク上膊筋曰ク前膊筋白ク手筋是レナリ
 乃チ其上膊ニ属スルモノハ三稜筋、小圓筋、二頭筋

上膊前部ノ諸筋



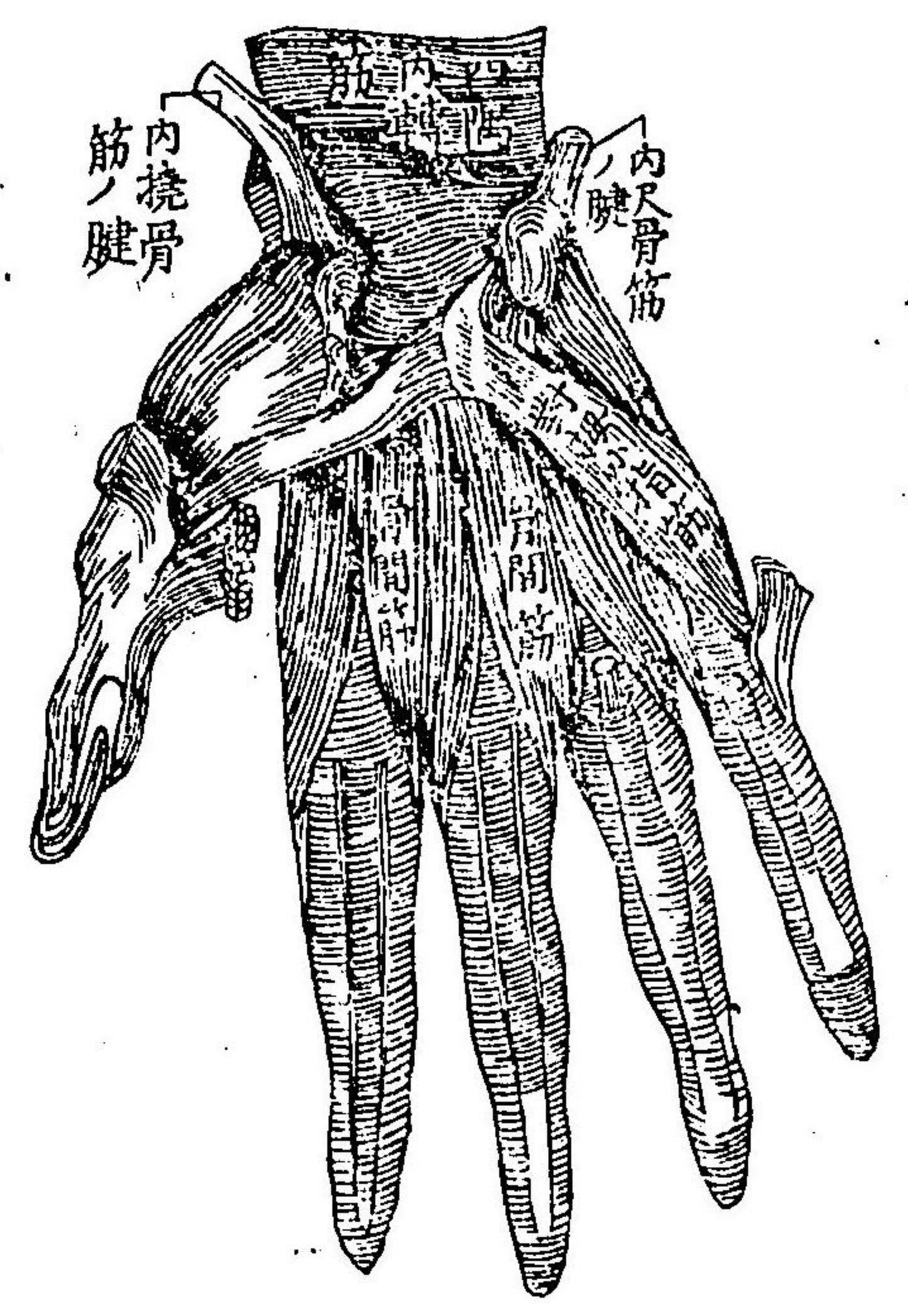
三頭筋、
 二頭筋、
 其前
 膊ニ
 属ス

前膊外側ノ諸筋



尺腕
 伸筋、
 諸指
 伸筋、

手部諸筋



撓骨短伸筋、撓骨長伸筋等ナリ又夕其手部ニ属スルモノハ、
 拇指短外轉筋、短指短屈筋、短掌筋、小指外轉筋、小指短筋、
 蟲様筋、骨間筋等ナリ

其二 下肢骨

下肢骨亦夕上肢骨ニ於ケルカ如ク四ツノ部分ヨリ成ルモノナリ乃チ腰部、股部、脚部及ヒ足部是レ

ナリ然ノ此四部ノ中心タルモノハ腰骨、股骨、脚骨及ヒ足骨ノ四骨ナリ而ノ足骨ハ更ニ分ケテ足根骨、中足骨及ヒ趾骨ノ三種トス

甲 腰骨

腰骨ハ左右各一枚ナリ而ノ小兒ノ時ハ腸骨、坐骨、耻骨ノ三骨ヨリ成ルモノナレ、
 此三骨相合メ全ク一骨トナル故ニ今之ヲ一枚ト合セテトナシテ論ス而ノ腰骨ハ猶肩骨ノ上肢ニ於ケルカ如ク畢竟下肢ヲ連繫スルノ帶トナルモノナリ而ノ腰骨ハ薦骨、尾骶骨ニ頼テ其後部ヲ連結シ以テ一個ノ大輪ヲ形成ス之ヲ名ケテ骨盤ト云

骨盤ノ兩外側ニ於テ各一個ノ深窩アリ此窩ハ股

右腰骨ノ内面圖



骨ノ關節頭ヲ容ル、所ノモノニノ寬サ一寸五分
 深サ一寸之ヲ名ケテ髌臼ト云フ是レ坐骨ノ上。耻
 骨ノ外。腸骨ノ下。三骨交々會スルノ處ナリ而シテ
 三骨ハ原互ニ相離居スルヲ以テ假令成丁ニ及テ
 一骨トナルト雖凡自ラ其癒合跡ノ遺レルモノア
 リ故ニ茲ニ三骨ノ形狀位置等ヲ略説セントス

其一腸骨

腸骨ハ腰骨中ノ上後部ニ位ノ其基礎部ヲ體ト云
 フ而シテ體ニハ内外ノ兩面アリテ髌臼ノ上三分ノ
 一ヲ形成シ之レヨリ上外方ニ向テ扇狀ニ擴張ス
 ルモノナリ又々其外面ハ平滑ニシテ二條ノ穹隆線

ヲ具フ之ヲ外弓狀線ト名ツク是レ中臀筋及ヒ小
 臀筋ノ附着スル部ナリ内面亦タ後方ヨリ前下ニ
 走ル所ノ彎曲線アリ之ヲ内弓狀線ト名ツク此線
 ニ由テ此面上下ノ二部ニ分カツ而ノ下部ハ甚タ
 狭少ニシテ髌臼ノ一部ヲナシ上部ハ更ニ分レテ前
 後ノ二部トナル乃チ其前部ハ陷凹滑澤ニシテ小腸
 ノ一部腸廻ヲ盛ル是レ腸骨ノ名ヲ得ル所以ナリ又
 タ其後部ハ不平粗糙ニシテ耳狀ノ接合面アリ是レ
 薦骨ノ耳狀ノ側面ニ應スルモノナリ

其二坐骨

坐骨ヲ區別ノ三部トナス曰ク體曰ク上行枝曰ク

下行枝是レナリ而ノ體ハ三稜行ニシテ髌臼ノ下三
 分ノ一ヲ形成ス又タ其後方ハ銳ノノ棘起ヲ以テ
 終ル之ヲ名クテ坐骨棘ト云フ下行枝ハ體ヨリ挺
 出セルモノニシテ三角形ナリ而ノ其下部ハ粗糙ナ
 ル結節ニ終ル之ヲ坐骨結節ト名ク上行枝ハ坐骨
 結節ヨリ前内方ニ上行シテ耻骨ノ下行枝ニ接続ス
 此骨ノ下行枝ノ結節ハ九坐ノ時椅上ニ乗スルヲ
 以テ坐骨ノ名アルナリ

其三耻骨

耻骨ハ之ヲ分クテ地平枝ト下行枝トノ二様トナ
 ス地平枝ノ外端ハ髌臼ノ内部ヲ形成シ其内端ハ

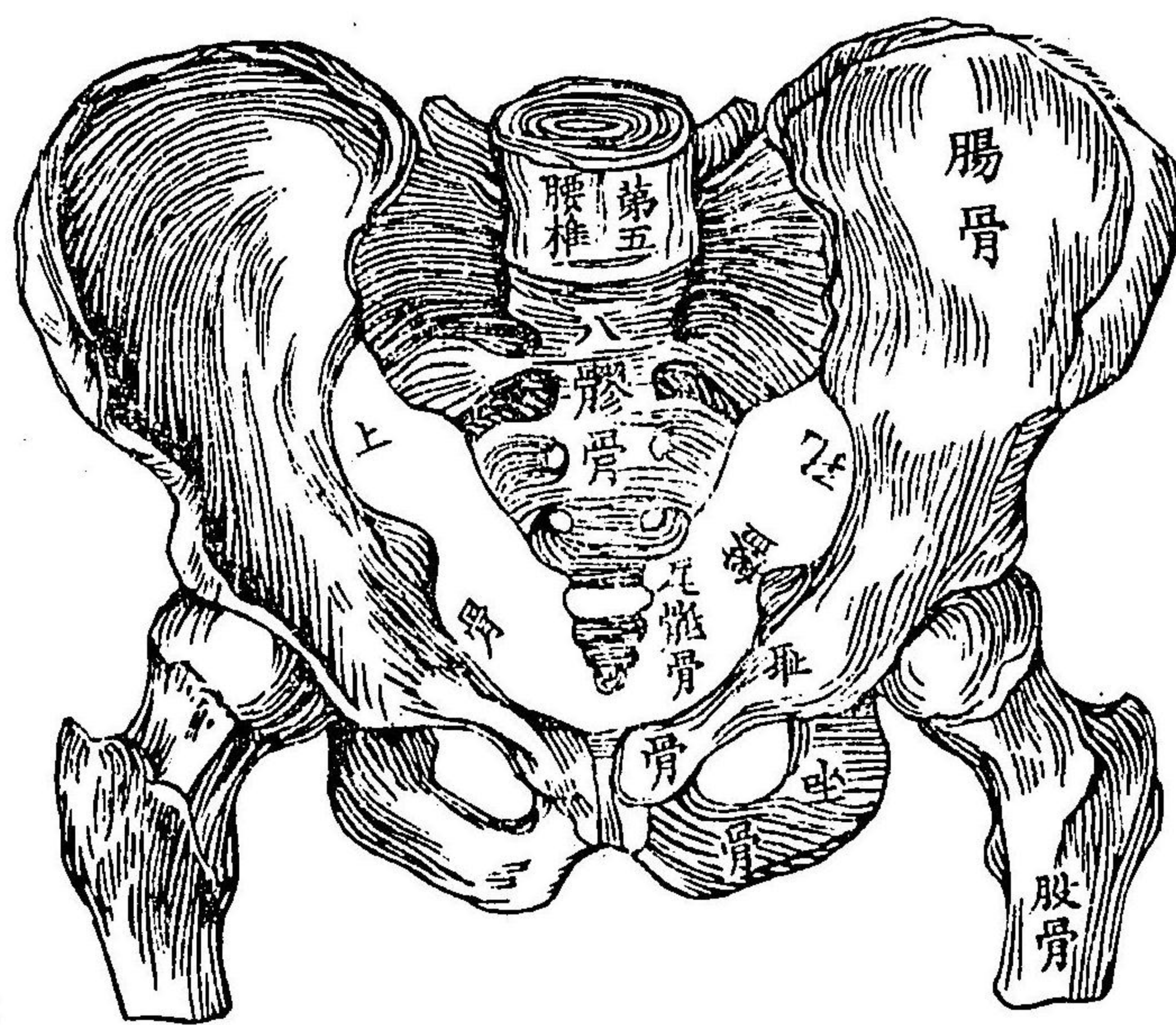
他側ノ地平枝内端ト前陰ノ上分界ノ處ニ於テ互ニ相接合ス是レ耻骨ノ名アル所以ナリ又々其下行枝ハ地平枝ノ内端ヨリ挺出ノ坐骨ノ上行枝ニ接スルナリ

骨盤論

骨盤ハ軀幹ノ下部ニ位ノ左右ノ腰骨ト假椎即チ薦骨尾骶骨トノ連接構造ニ由テ成ルモノナリ試ニ骨盤ヲ平面上ニ安置スレハ尾骶骨尖端ト坐骨兩結節トニ由テ支ヘラレ其狀恰モ一水盤ノ如シ故ニ之ヲ總稱ノ骨盤或ハ尻骨盤ト云フ骨盤外面ノ中央ニハ所謂髌臼窩ナルモノアリ以テ股骨ノ

頭ヲ受容ス又々其内面ハ一ツノ空腔ヲ形成ス之ヲ骨盤腔ト云フ骨盤腔ハ即チ腹腔ノ下部ヲ助成スルモノ

男子骨盤ノ前面



ニノ其前部ニハ膀胱後部ニハ直腸等ヲ藏スルモノナリ而シテ此骨盤腔ハ上

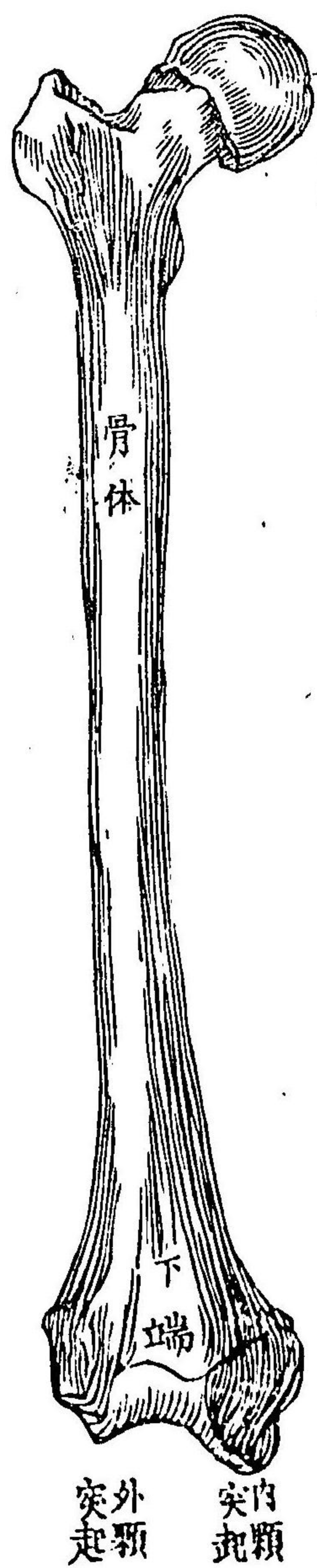
部ハ廣大ニ下部ハ狹少ナリ故ニ更ニ其名ヲ分
 ケテ上部ヲ大骨盤腔ト云ヒ下部ヲ小骨盤腔ト云
 フ其他骨盤ハ男女人種等ノ區別ニ從ヒ大ニ其形
 狀ヲ異ニスルモノナレ其ハ醫學家ノ講究スル
 所ニノ普通ノ學生ニ於テハ甚タ緊要ナラス依テ
 茲ニ其細論ヲ略ス

乙 股骨

股骨ハ人身中最モ長大ナル管骨ニノ左右各一枝
 アリ此骨髌臼ヨリ斜ニ内方ニ下リ以テ下脚ニ達
 ス之ヲ體ト兩端ニ區別ス體トハ兩端ノ中間部ニ
 ノ稍彎曲シ形ヲ殆三稜柱ナリ上端ハ少シク内方

ニ向キ骨體ト鈍角ヲナシ以テ球狀ノ巨頭ニ終ル
 其形恰モ杵ノ頭ノ如シ之ヲ名ケテ股骨頭ト云ノ
 此頭ヤ髌臼ノ窩中ニ嵌入シ以テ腰關節ヲナスモ

右股骨 前面ノ圖

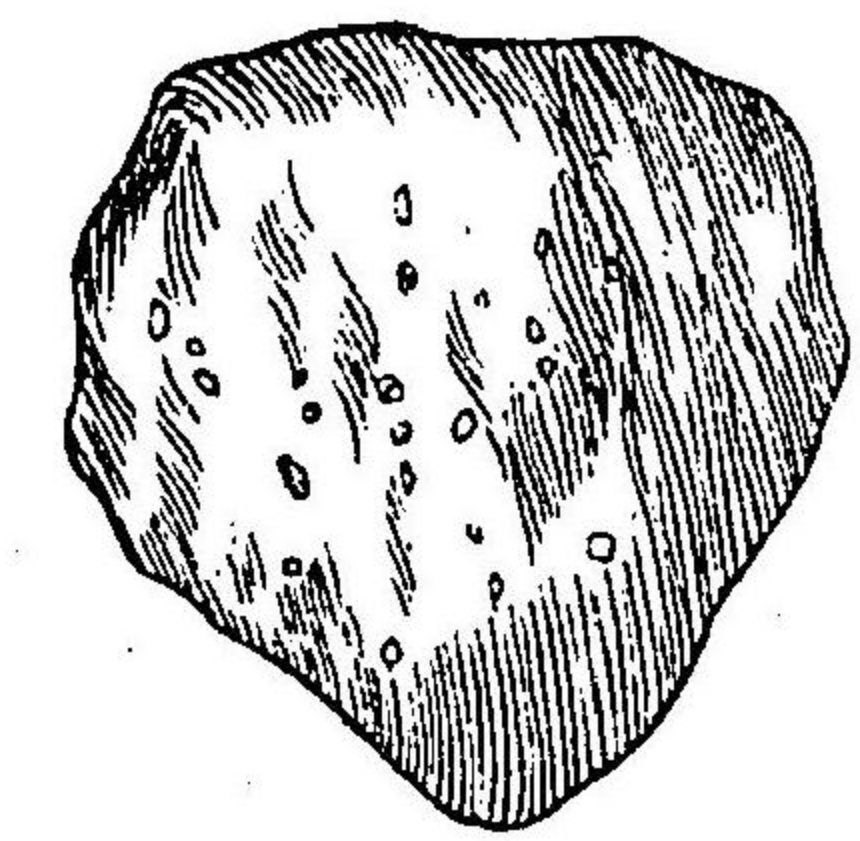


ノナリ而メ此關節ハ全身中最モ強堅ナルモノ即
 チ軀幹ヲ支ヘ直立行歩ヲナスノ柱石ニノ甚タ樞
 要ナリ故ニ囊狀靱帶ベルチニ一氏副靱帶及ヒ圓

靱帶等ヲ備ヘ以テ其連接ヲ堅固ナラシム又々
 其下端ハ頗ル厚大ニシテ内外ノ顆突起ニ終ル而シテ
 内顆突起ハ狹ク下方ニアリ外顆突起ハ廣クノ
 前方ニ突出シ以テ脛骨ノ上端ニ接ス此内外顆ノ
 前面ニ於テ一窩アリ之ヲ顆間窩ト云フ是レ膝蓋
 骨ノ連接スル處ナリ

右膝蓋骨

膝蓋骨ハ膝關節ノ前面即チ顆間



窩部ニ位シテ左右各一枚アリ此骨
 ハ海綿狀ノ短骨ニシテ其原質ハ手
 足ノ種子骨ト異ナルヲナシ而シテ
 其功用ハ脚腱附着ノ點トナリ以

テ滑車様ノ運動ヲナスモノナリ

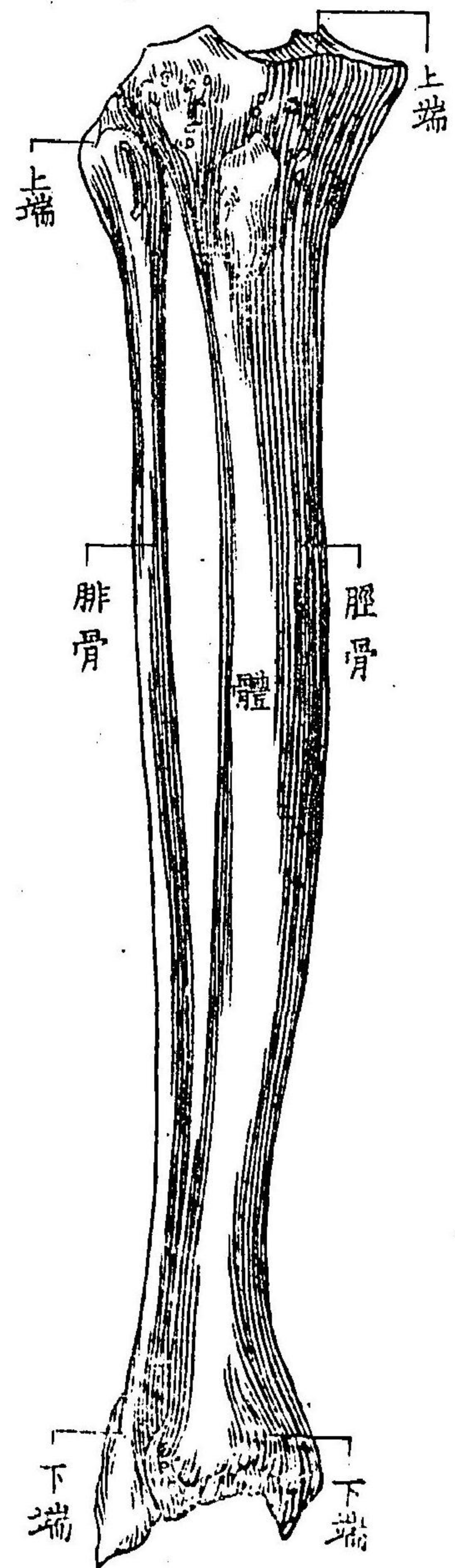
丙脚骨

脚骨ハ猶四肢ノ前膊ニ於ケルカ如ク左右各二枝
 ノ骨ヨリ成ル乃チ脛骨腓骨是レナリ

①脛骨

脛骨ハ股骨ニ次ク所ノ強大ナル管狀骨即チ長骨
 ニシテ同シク體ト兩端トニ分カテリ體ハ著シキ三
 稜形ナリ故ニ三面ヲ有ス上端ハ最モ厚大ニシテ股
 骨ノ如ク内外二個ノ顆突起ニ終ル其内顆ハ股骨
 ノ内顆ニ接シ外顆ハ股骨ノ外顆ニ接スルモノト
 ス而シテ此股脛兩骨ノ連接ヲ膝關節ト云フ膝關節

右脚骨 前面



ヲ繫着固持スル所ノ靱帶ハ十字靱帶内外ノ側靱帶及ヒ囊狀靱帶等是レナリ又々其下端ハ四側尖柱形ニメ其下面即チ關節面ハ足根骨中ノ距骨ニ連接ス而シテ此下端ノ内側ハ厚大ナル突起ヲ有ス名ケテ内髌ト云フ

㊦ 腓骨

腓骨ハ脛骨ノ外側ニ位スル管狀ノ骨ニシテ脛骨ニ比スレハ甚ク細シ然レ共ニ長骨ノ一種ナレハ同シク之ヲ體ト両端トニ區別ス體ハ不正ノ三角形ナリ上端ハ突兀トシテ巨頭ノ狀ヲナス之ヲ腓骨頭ト云フ其内側ニ一ツノ關節面アリ是脛骨ニ接スル處ナリ又々其外側ハ突出シタル鈍端ニ終ル此端ハ則チ股骨ニ接セスノ股二頭筋ノ附着ニ供スルモノナリ其下端ハ錐狀突起ニシテ外髌ヲ形成ス故ニ又々此端ヲ名ケテ外髌ト云外髌ハ脛骨ノ下端ト齊シク距骨ニ連接ス之ヲ足關節或ハ髌關節

節ト云フ此關節ニハ前腓骨距骨靱帶後腓骨距骨靱帶跟骨腓骨靱帶三角靱帶等アリテ之ヲ繫着スルト雖凡其運動甚々自在ナルヲ以テ外來ノ損傷ヲ受ク易シ例之ハ打撲等ニテ屢々脱臼スルノ類宜シク意ヲ加ヘテ保護ス可キナリ

丁足骨

① 足根骨 又跗骨

足根骨ハ猶手根骨ノ如ク細小ナル短骨ニシテ其數七個アリ同シク二列ト成リ以テ足根ヲ形成ス然レ凡手根骨ハ如ク横列ヲナス其第一列ハ足ノ後部ヲ形成スルモノニシテ距骨跟骨ノ二骨ヨリ成

リ跟骨ハ下ニアリ距骨ハ上ニ位シ下脚骨ト接シ以テ足關節ヲナス又々其第二列ハ船樣骨内楔狀骨中楔狀骨外楔狀骨骰子骨ノ五骨ヨリ成ル今其各骨ノ位置ヲ論スレハ船樣骨ハ足ノ内側トハ

右足骨 背面圖



上等 人體論卷一

四十一 諸師師範學科補前

大趾ノ方ヲ云フ手ハ之レニ
 反ノ小指ノ方ヲ内側ト云フニシテ距骨ト三楔狀
 骨トノ間ニアリ骰子骨ハ此二列中ノ外側ニノ其
 後部ハ跟骨ニ接シ前ハ第四第五ノ中足骨ニ接ス
 内中外三個ノ楔狀骨ハ互ニ相密着横列ノ其後部
 ハ共ニ船樣骨ニ接シ前部ハ其順序ニ從テ第一ヨ
 リ第三ノ中足骨ニ接スルモノナリ

⊙中足骨 又跗前骨

中足骨ハ趾骨ト足根骨トノ間ニ位シテ猶手ニ於
 ケルカ如ク左右各五枚アリ共ニ其後端ハ足根骨
 ニ接シ其前端ハ趾骨ニ接スルモノトス而ノ此骨
 ハ肉方ヨリ外方ニ向テ數フルカ故ニ之ヲ區別ノ

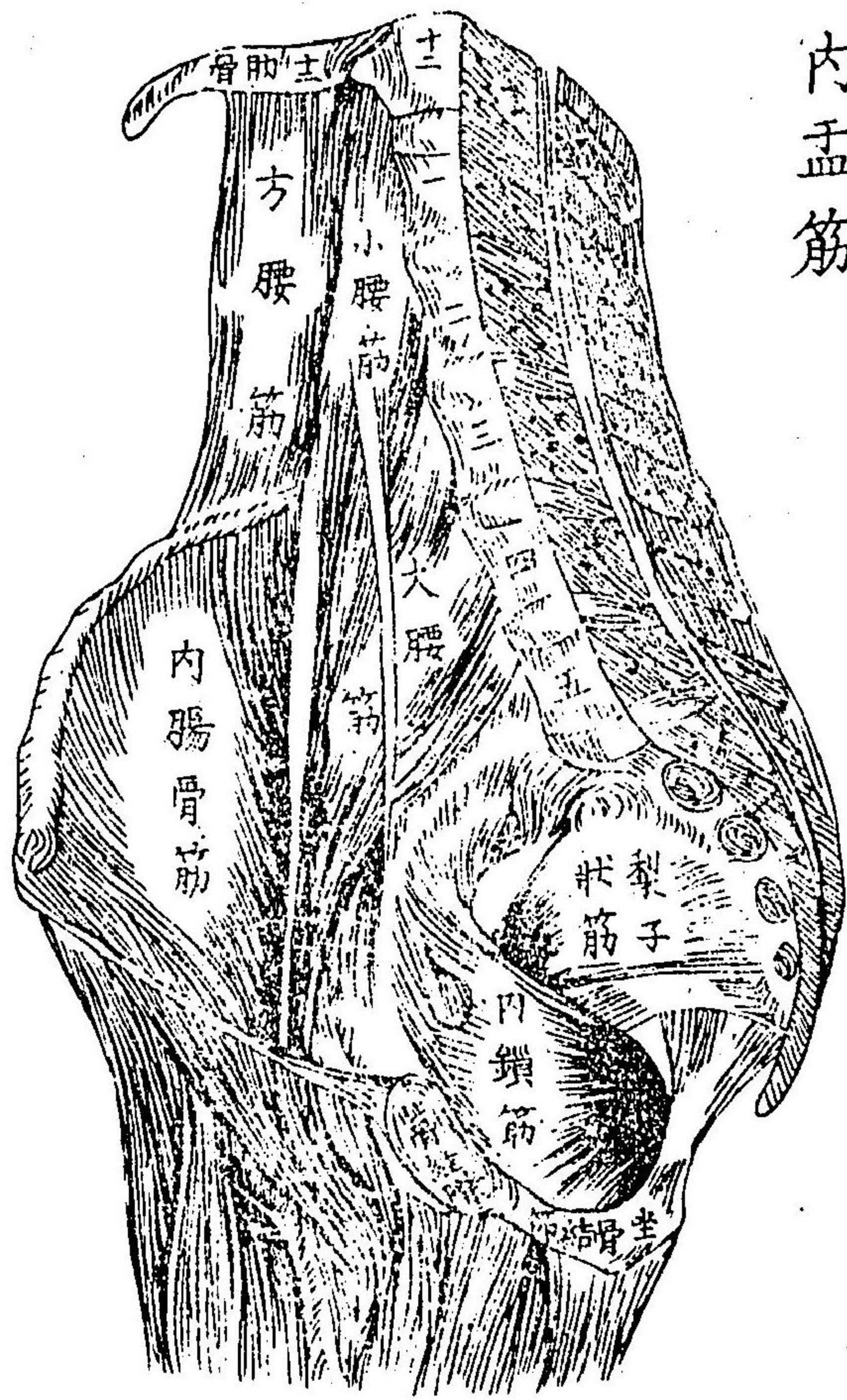
第一ヨリ第五ノ中足骨トス其第一中足骨ハ大趾
 ニ接スルモノニシテ短ク此關節間ニ手ノ
 其第二ハ長ク第三ヨリ第五ニ至ルニ從ヒ漸々小
 ニノ且ツ短ナリ

趾骨

趾骨ハ總數十四個ニシテ第一趾ハ二骨ヲ有シ他ハ
 皆三骨ヲ有ス總テ手指骨ニ異ナルナシ故ニ其
 名稱モ亦タ相同シ但シ指骨ニ比スレハ其形短小
 ニノ圓ナルノミ
 右ニ記スル所ノモノハ下肢骨骸ノ大略ニノ之ヲ
 被覆シテ以テ圓滿ナラシムルモノハ即チ筋ナリ

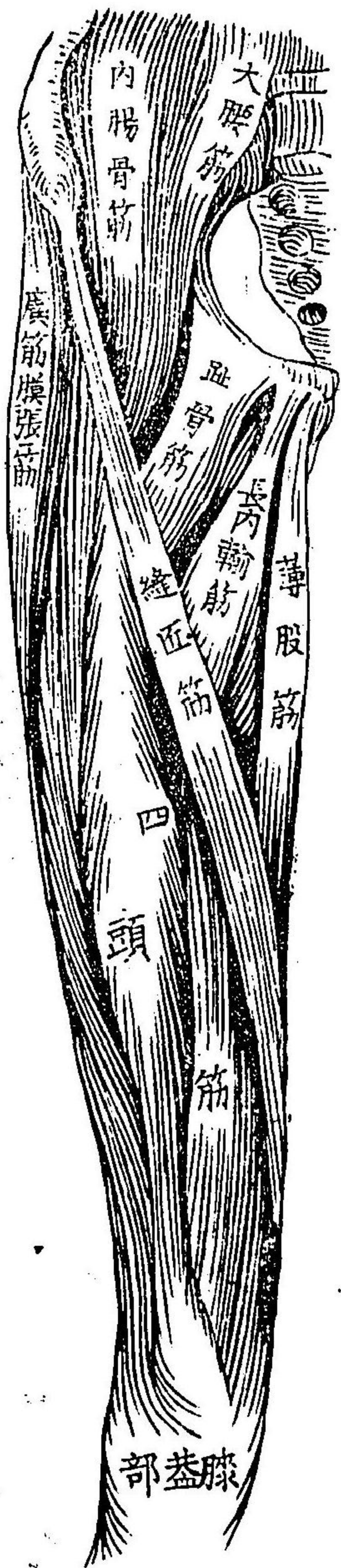
通常下肢ノ筋ヲ大別ノ四種トナス曰ク孟骨筋即筋盤曰ク股骨筋曰ク下脚筋曰足筋是レナリ孟骨筋

内孟筋



ハ之ヲ小別ノ内孟筋、外孟筋ノ二種トス其内孟ニ属スル者ハ大腰筋、内腸骨筋、小腰筋

ニノ其外孟ニ属スルモノハ大臀筋中臀筋小臀筋梨子状筋上雙子筋等ナリ股骨筋ハ之ヲ小別ノ前層筋後層筋ノ二種トス其前層ニ属スル者ハ廣筋膜張筋股骨前層筋



縫匠筋四頭筋、薄股筋大内輸筋長内輸筋短内輸筋等ニノ其後層ニ属スル者ハ股二頭筋半腱様筋半膜様筋是ナリ下脚筋ヲ小別ノ前外面筋後面筋

二種ト其前外面ニ屬スルモノハ前脛骨筋大趾長伸筋諸趾長伸筋長腓骨筋短腓骨筋ニシテ其後面ニ屬スルモノハ腓腸筋比目魚筋足蹠筋膝膠筋長大趾屈筋長諸趾屈筋後脛骨筋是レナリ足筋ハ之ヲ下脚前外面ノ諸筋



小別ノ背筋蹠筋ノ二種トス其背ニ屬スル者ハ短

足背諸筋



諸趾張筋短大趾長筋ニシテ其蹠ニ屬スル者ハ大趾内輸筋短大趾屈筋大

趾内輸筋小趾外輸筋小趾短屈筋短諸趾屈筋骨間筋蟲様筋是レナリ

凡ソ是等ノ諸筋ハ其種類ニテ横紋筋ニ屬スルヲ以テ精神ノ使令ヲ受ケ其運動一々隨意ニ出テサルモノナシ就中其作用ノ顯著ナルモノハ其機能上ノ名ヲ符ノ以テ之ヲ徴ス例之ハ伸筋トアレハ

則子其部ヲ伸ハシ屈筋トアレハ則子其部ヲ屈ス
 又夕内輸筋トアレハ則子其骨ヲ内方ニ輸リ外輸
 筋トアレハ則子其骨ヲ外方ニ輸ルノ類是レナリ
 其他筋ノ性質機能及ヒ其形狀位置等ノ詳論ハ此
 書ノ標的ニアラサルヲ以テ今之ヲ茲ニ贅セス學
 者若シ其詳ナルヲ悉セント欲セハ宜シク他ノ
 解剖全書ニ就テ觀ル可キナリ

上等人體論卷一終

明治十二年五月廿七日板權免許
 同年七月出版

定價金貳拾錢

編輯人

師範學校教員
 靜岡縣平民

河合虹平

靜岡紺屋町廿三番地寄留

檢閱人

同縣士族

磯部物外

靜岡鷹匠町三十七番地
 寄留

靜岡縣

師範學校藏版

靜岡追手町四十八番地

賣捌人

同縣平民

廣瀨市藏

靜岡江川町十二番地

